

神奈川芸術祭

第16回神奈川県美術展



神奈川芸術祭
第16回神奈川県美術展

会期：昭和56年1月20日⇒2月15日

〈1期展〉日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形
昭和56年1月20日(火)⇒2月1日(日)

〈2期展〉工芸・書・写真
昭和56年2月3日(火)⇒2月15日(日)

会場：神奈川県民ギャラリー

主催：神奈川県美術展委員会・神奈川県

ごあいさつ

神奈川県美術展は、県内の美術作家の育成と文化の振興をはかるため、昭和40年度に発足し今年度で第16回を迎えました。

今回は第15回までの成果を記念する意味で神奈川県美術展大賞受賞作家展を昨年10月県民ギャラリーで開催いたしました。新しく制作された力作・大作の数々に、大賞受賞作家の皆さんとのその後の活躍ぶりをうかがうことができ、県美術展の存在意義を改めて確認し、深い感慨を覚えました。

神奈川県美術展を支えてきてくださった多くの関係者の方々にお礼申し上げます。

今回もまた、一年の歳月をこの美術展にかけた作品が県民ギャラリーいっぱいに集まりました。審査にあたられた先生方にも大変御苦労をいただき感謝に堪えません。

この図録には、各部門の入賞作品の図版を集録いたしました。応募された方々の励みとなり、また関係者の皆様の記念になれば幸いです。

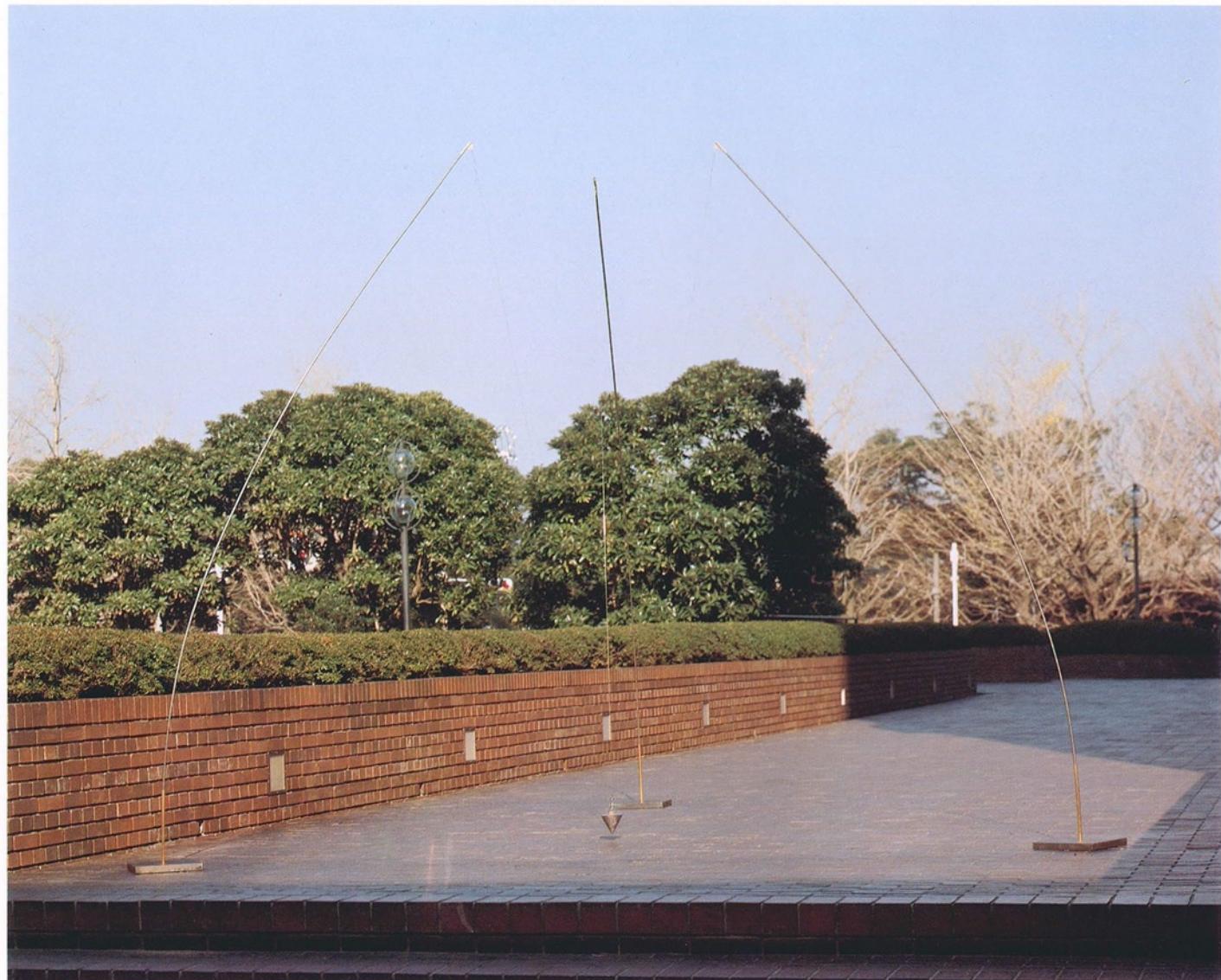
最後になりましたが、今年度から横浜銀行の御厚意により新しく特別奨励賞を設けることができましたことを、心から感謝申し上げます。

昭和56年1月20日

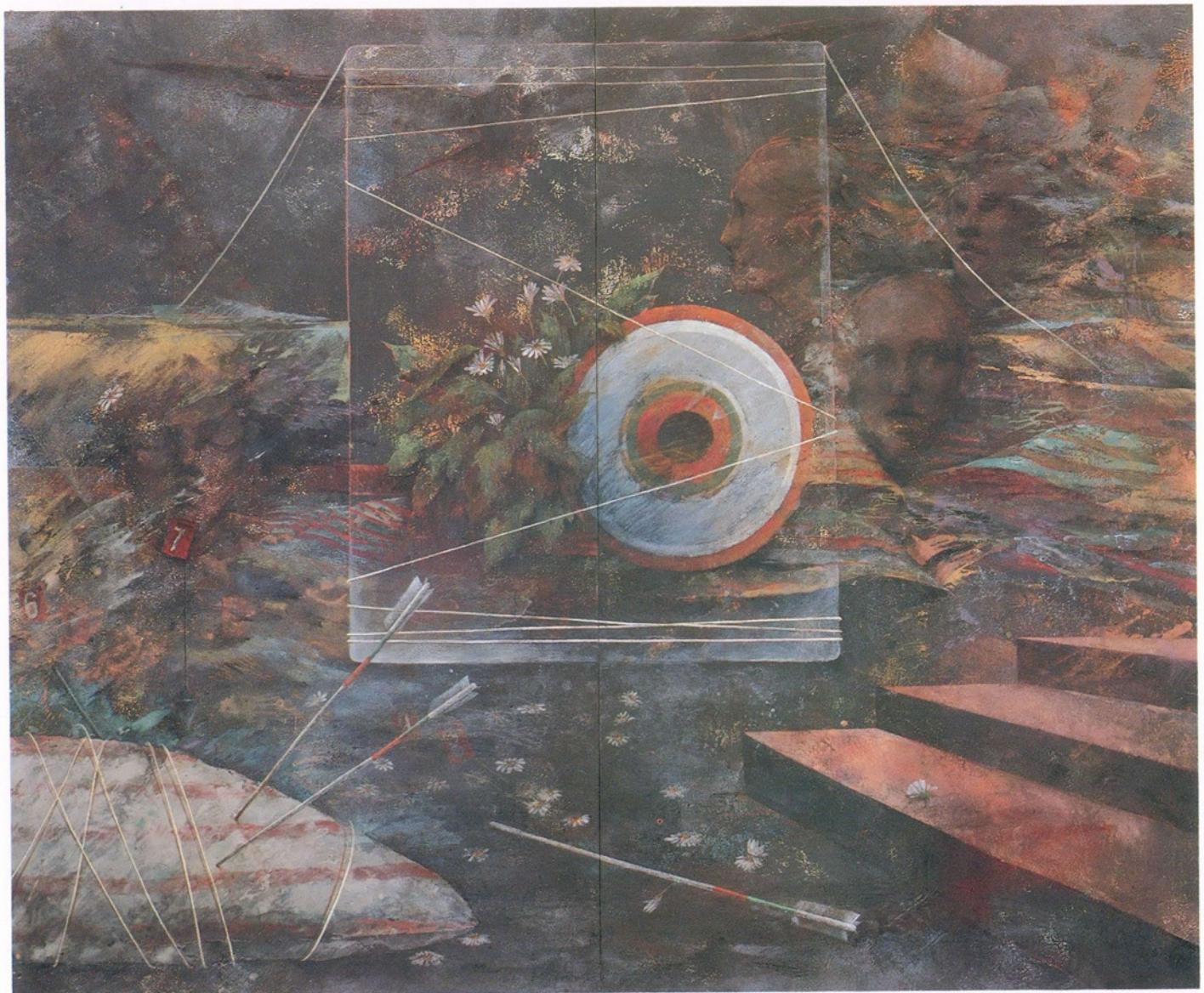
神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊

日本画
洋画
版画
彫刻
立体造形部門



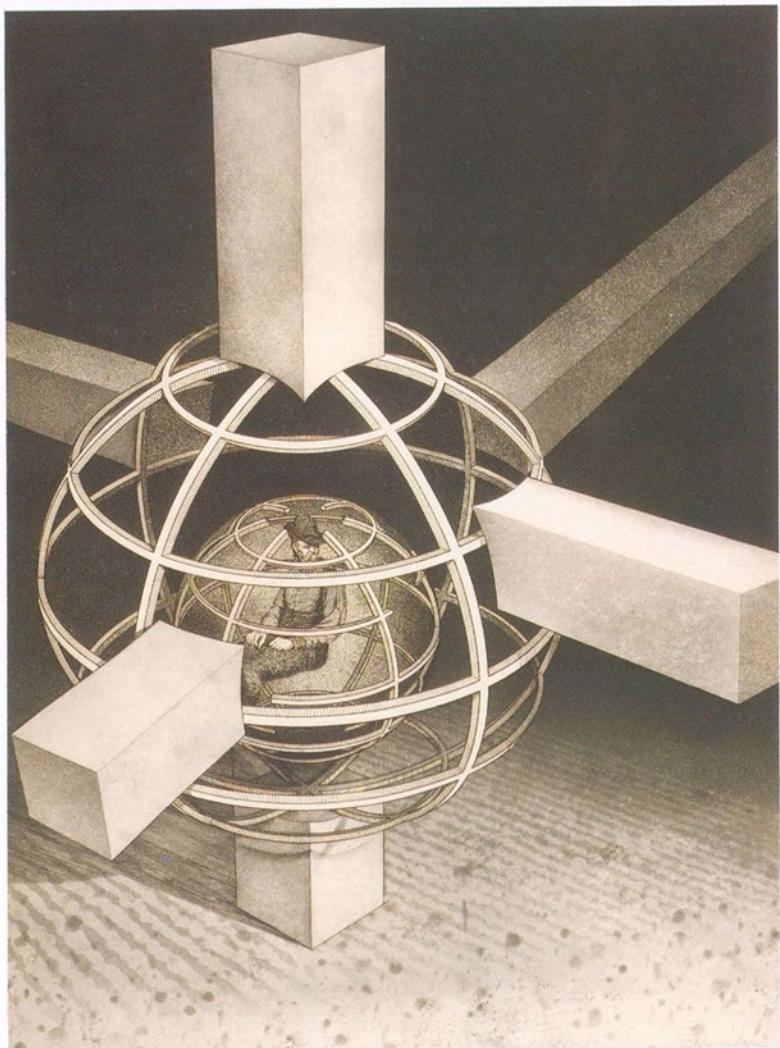
大賞 和久井 Who HANGING (立体造形)



準大賞 鳥山 玲 Nの時(日本画)



準大賞 星 兼雄 階段のある(崩壊1)(洋画)



特選 岡本道治 もう一つの世界(球) XVI(版画)



特選 松本 雄治 横たわる女(豊穣) (彫刻)



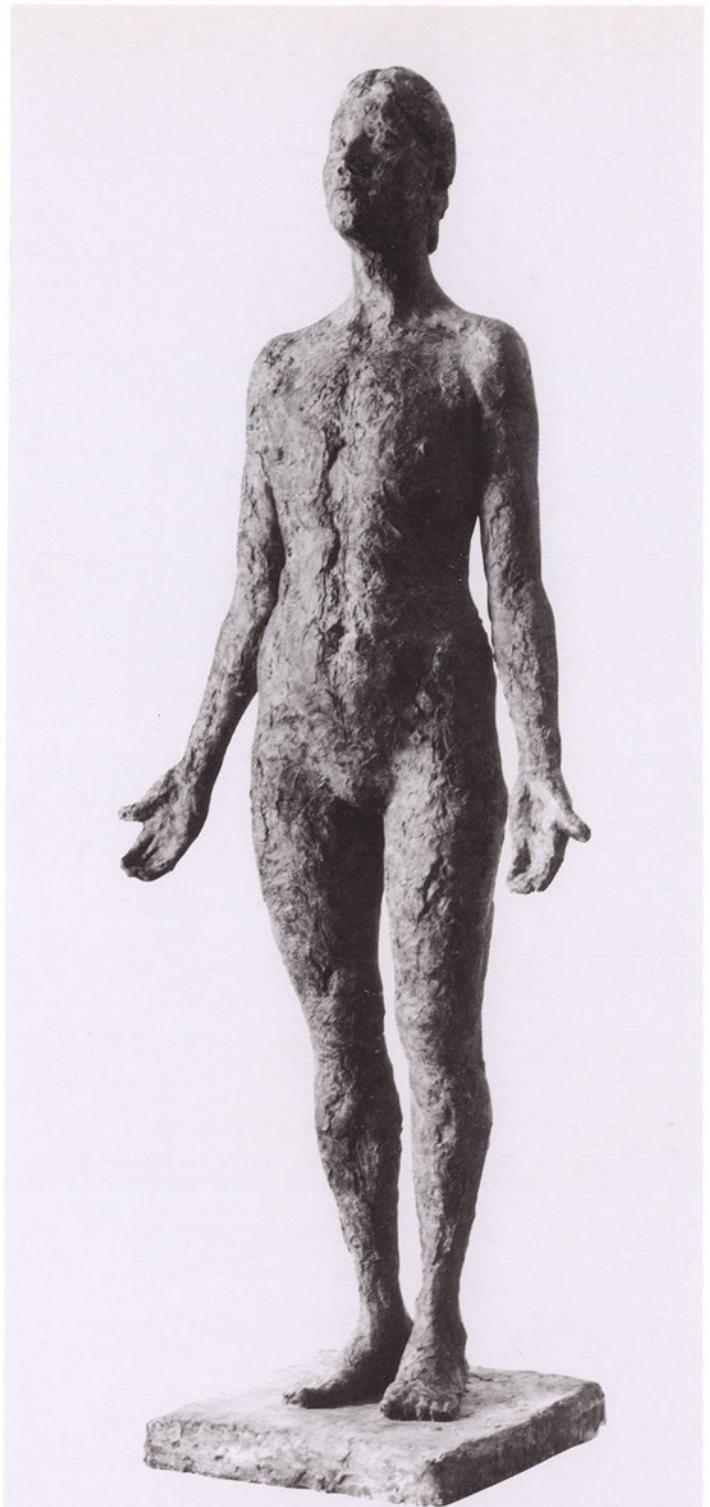
特選 勝又 豊子 忘れられた一隅Ⅱ(立体造形)



美術獎学会賞 宮田翁輔 開発(洋画)



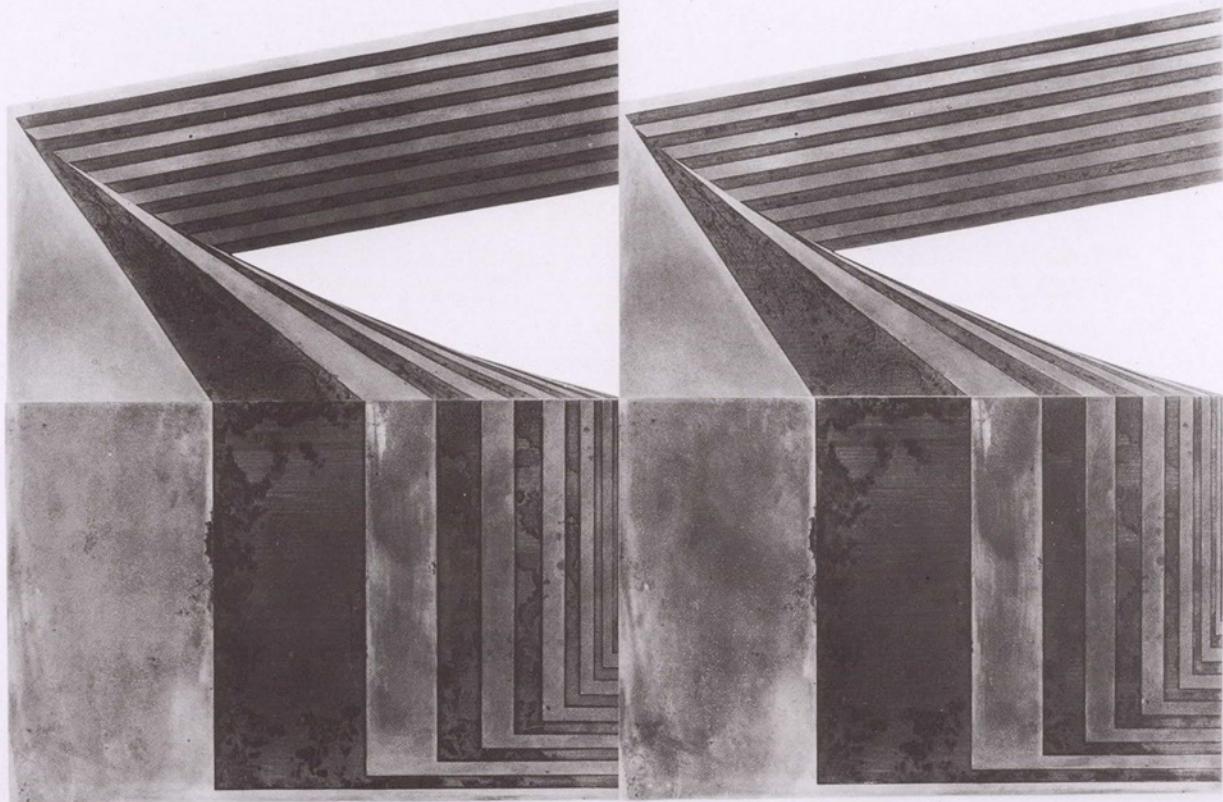
美術奨学会賞 鍔本 純一 SCULPTING(f) (洋画)



美術奨学会賞 宇野 務 開(彫刻)



美術奨学会賞 大隅 英雄 LOCUS OF WING (立体造形)



近代美術館賞 比留間良夫 The Seven Stripes-B (版画)



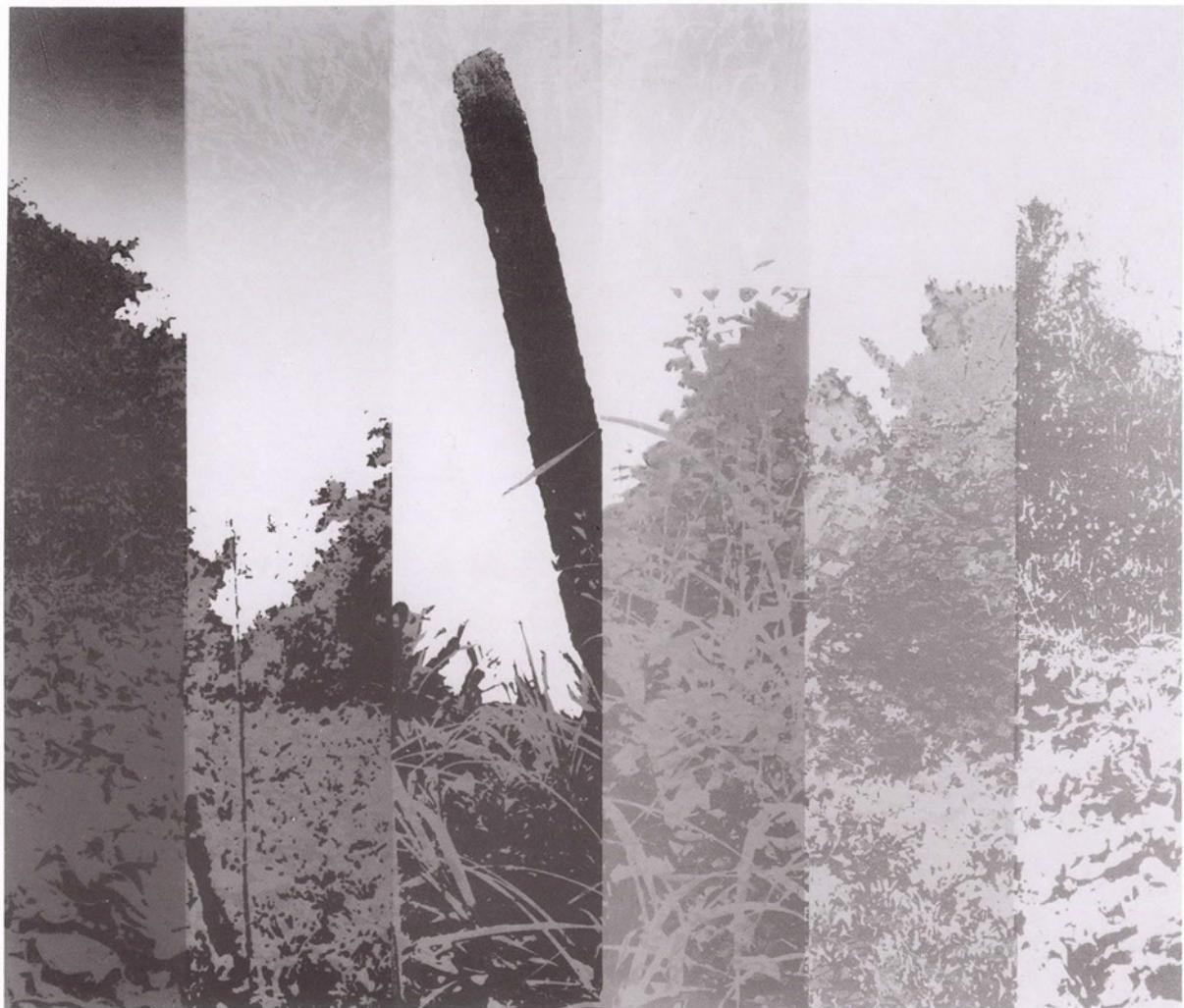
特別奨励賞 松倉茂比古 TENKAI (日本画)



特別奨励賞 武藤政彦 地表で2(洋画)



特別奨励賞 日向野桂子 彼の丹精(版画)



県議会議長賞 五島三子男 Vanishing scenery III (版画)

■受賞作品目録(日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形)

■大賞

和久井Who HANGING (立体造形)

■準大賞

鳥山 玠 Nの時 (日本画)
星 兼雄 階段のある(崩壊 1) (洋画)

■特選

岡本道治 もう一つの世界(球) XVI (版画)
松本雄治 横たわる女(豊穣) (彫刻)
勝又豊子 忘れられた一隅II (立体造形)

■美術奨学会賞

宮田翁 輔 開発 (洋画)
鶴本純一 SCULPTING(f) (洋画)
宇野 務 閑 (彫刻)
大隅英雄 LOCUS OF WING (立体造形)

■近代美術館賞

比留間良夫 The Seven Stripes-B (版画)

■特別奨励賞

松倉茂比古 T E N K A I (日本画)
武藤政彦 地表で2 (洋画)
白向野桂子 彼の丹精 (版画)

■県議会議長賞

五島三子男 Vanishing scenery III (版画)

■入選作品目録

〈日本画〉

佐々木史江 マヤ
伊澤美都子 とりかご
河野秀子 優界
森田鶴 夜咲く
林美枝子 いにしえ
中村玲子 私の冬
中村慎一 彼岸の家
熊谷桃子 想
山下まゆみ 夏に咲く花
飯野静子 映
菊池俊治 滯船(釧路川)
伊藤恵子 乙女たち
奥山たか子 笑いII
古賀文子 悟、華実
黒川 静 予言
橋波津子 少女
森川典子 華の時刻
品川成明 景像—「船」
遠山洲平 鏡の前I
岡田はるみ フラニの男
海老根美紀子 想う
福田信子 煩惱の炎(作品No.11)
加藤敏夫 神々の忘れていつたもの
井上芳雅 ノートルダム寺院の秋
小松崎千砂子 雨後
鈴木紀彦 壁画のある街
宮下富佐子 空より
山本ヨリコ もつと楽しくていいはずなのよ
野崎丑之介 破魔
小畠深雪 匠
市橋豊美 石の野—ヒクイドリ
安住英之 開古
平岡直久 群生
能島千明 密談
山岸佐江 やみ
川村紫朗 トレドの路地
安住小百合 ある日の午後
渡辺薰 室内II(赤い部屋)
井出文洋 人々——風——

〈洋画〉

石川聰 Rolling-One
久松共子 360°のエクリチュール(B)
佐藤武 夢飛行

田代健二	氷雪の道	矢島良夫	内景(2)
鈴木幸子	天	長谷川桑知子	貞昼の部屋
新井恵子	THEIR ONLY SORROW	南部正美	供物
松野登美子	ひまわりの詩(2)	風間美苗	展開
宮田翁輔	開発	男谷省吾	カッショ
平井等	肥料作り	菅野昌實	賜命(1)
栗原正順	三浦の丘	山田裕子	密集(2)
石塚健児	あんな1	永井寿美子	山間の風景I
多田実	過疎、薬草干の譜	有馬純治	釣り船のある風景
三塙寿	鳥Ⓐ	三村賢治	△シロ
青木道夫	神への供物	あさい敏恵	slanting tach '80 II
	不安なる憧憬	菅原千恵子	油傀儡
藤村弘子	R U I N II	海野博子	人形の夢
奥田紘	非連続線のマリオネット	ハヤシアキオ	カンヌ
庄司健一	それを見よ	高橋建	Area III
萩原和子	涯	黒川洋	鳥(転)
結紫正作	浜への道	尾竹由己	Rolling-1
高谷恵美子	Emotion	川端洗耳	母なる海から
千葉彰一	家群②	硯川秀人	映し出されたビル-1130
岡崎義弘	黄い面	畠中陽一	C U B E 2311
田中善隆	ヨツコラショット(1)	橋本倫	絵の前の壺及び筆
石井武	ISOLATION(1)	千葉和男	静止の時II
星兼雄	階段のある(崩壊2)	小宮高雄	時と共にI
佐藤嘉夫	鎖と鋼管	山手政男	TRANSFORMER
木本美恵子	鳥と鳥かごPART IV	近藤栄子	浸透VII
森博美	三密一玖	加藤幸寿	人間思考(I)
岡本普一	財布の中の道程	齋場二郎	石からB
中村陽子	コンポジションII	増田清志	渚にて(2)
関光行	作品A	江口博巳	From Mr. M
佐藤栄子	光陰II	安盛孝一郎	植生栽培・朝
前田えみ子	アフリカの太陽I	原英八	DOT-BLACK
山本龍雄	Dominenka-No 1	清水悦男	記憶への彷徨80-IV
箱山直樹	WORK-B		
水戸部千鶴子	瓶たちB		
中島數子	鐸花界		
石川俊一	讃歌III(晩秋)		
平田アツ子	CHAOS	瀬尾力	作品
安部利行	天地帰消	吉沢豊夫	窓I
柏豊	ラメール		
竹下隆	蠢く詩S		
高橋和夫	シャボン玉とピエロNo.3		
香川猛	縁日		
出口佳子	陽光 No.1		
西川正美	華景「A」	海美代子	夜幻花譜
小川勝	80-B	岡本道治	もう一つの世界(球) XV
吉成智子	壁	菅原大輔	憧憬
臼井恵之輔	あまめはぎ	日向野桂子	儀式の予告
平和夫	瑞相	五島三子男	Vanishing scenery II
		須山孝	ピンと帽子

〈水彩画〉

瀬尾力 作品
吉沢豊夫 窓I

〈版画〉

海美代子 夜幻花譜
岡本道治 もう一つの世界(球) XV
菅原大輔 憧憬
日向野桂子 儀式の予告
五島三子男 Vanishing scenery II
須山孝 ピンと帽子

大石だけのり お別れです
 市川有子 たゆたうー1
 大庭明子 振り付け師の朝
 杉山一夫 白い仮面の踊り手
 杉山一夫 ヨコスカドブ板シリーズ
 ノ
 雙田実 Negative line
 竹内斗望 殻形ー1
 長沢康子 太古幻想 I
 比留間良夫 The Seven Stripes-C
 枝宏 座るな
 大島弘義 夜の客ーA
 利渉重雄 記憶の中に VI
 鈴木雅彦 様態・資料化3—a
 工藤忠孝 うしなわれる空間 I
 小川清 ORBIT—2
 寺田有恒 水平線上の風景
 高橋功 従燐 I
 遠藤智子 植物誌
 鈴木佐知子 Green I
 鈴木恭子 マントの人々
 藤田修 ハサミ
 矢田博次 Man and chairシリーズ I、II
 鈴木静子 Antiquites
 岡部龍子 空間
 茂木行雄 頭脳光景「2極の憂愁2」
 角田皆子 赤い手
 岡村好史 無題
 石塚啓一 ピックバントマイム パートツー
 長谷川真 かれい
 浦谷弘人 馬

〈彫刻〉

坂井彰夫 SHONAN
 井上麦 シャリグラム
 土の系譜
 加藤かづこ おんな
 植木孝二 O·N·NA III
 菅井正明 ノエマ
 近藤隆明 JOINT
 向後邦雄 トルソ
 宇野務 トルソ
 田中寛子 座る人
 坂井匠子 立つ
 川口シノフ 仰ぐ
 岡崎直 大野老猿

大内穂 髪 II.
 出口晶富 塊
 杉英行 積乱雲
 安丸信行 未知への軌道
 麻田昭作 謙訪の男
 宇佐美明 女立像
 竹村真理子 立像
 李赫 老ランナー
 邑 直接話法
 渡辺知平 別府博文 黒いトルソー

〈立体造形〉

伊沢暁美 陶紙
 焼物用陶紙
 寒田俊三 磁場
 大北利根子 作品ー1
 作品ー3
 伊藤紘子 Variation ①
 Variation ②
 平岡悦郎 Action and reaction
 大塙英夫 切られた円板 I
 切られた円板 II
 高橋勉 色彩水中同化
 大貴玲子 環状の地平線
 神山明 水、一枚
 高澤正行 立体造形No.3
 丸山智 Work O
 難波京子 tension I
 曾根光子 標本—a
 標本—a'
 阿部守 無題
 高野貴史郎 FLYING OBJECTS
 柏沼州良 The tip of a cycle
 梶山浩二 EXISTING POWER (存在力)
 斎藤光弘 from plane
 虚層
 山崎英一 Distance
 児玉由美子 The Straight line B
 八島久恵 work 80—11／29
 work 80—11／30
 南充子 SINE No.1
 松本工 BOO
 松倉藍輔 砂漠からの資料
 東日出夫 無題

■審査経過

〈日本画〉

前年に比べて日本画の搬入点数が増えていたので心強く思つた。日本画は初步的な修練が驚くほど多くて困難だから、近ごろの若い人たちには敬遠されるのではないか、などという杞憂を感じさせないばかりか、日本人にとって、やはり日本画は適しているのかな、とさえ思わせてくれる現象が見えるようでもある。

それはともかく搬入点数が増えたといつても僅かである。そのため入選点数も増えた、と思わないで載きたい。昨年より数点入選が多くなったのは、最後まで何度も合議を繰り返したが、どうしても入選させずにあらねーい作品が、いいえればどうしても落せない作品があったからである。その理由は、全体的にレベルアップしてきたからだ。

いろいろな傾向の作品があつた。自由な気持ちで制作しているのが判る。いいことだと思う。そして皆が、思っていることを——むづかしく思想、思考の表現などといわなくて——思っていること、感じていることを、自由に物語ついているようだった。自然に、制作態度が着実になつたし、各自の生活感情を正直に発現しようとしている意欲を感じとれた。そうした観点から、審査に当つたのである。

だから表面的な薄っばらな表現に終始したものは、どうしても入らなかつた。

傾向としては抽象的なものが非常に少なかつたが、具象だからといって上つつらなものも見られなかつた。

審査には、片岡球子、工藤甲人両先生と筆者とが当り、(加藤東一先生は欠席) 慎重に繰り返し合議のうえ、この結果を得た。来年の一層の飛躍を期待する。

竹田道太郎

●審査員 片岡球子・工藤甲人・竹田道太郎

●搬入点数 97点(67人)・入選点数41点(41人)

〈洋画〉

第16回展は、5部門の招待作家展を休むことになったが、このことがコンクール出品者の層にどのような影響を与えるか興味あることであった。しかし、結果は目立つた変化は見られないようであつた。ただ、出品者は幾分新人が多くつたようで、これは今後の展望に僅かながらでも明るいものを与えてくれたと言えよう。

審査後、審査員諸氏の感想などを総合すると、残念ながら内容的には平凡で飛び抜けてわれわれの目に迫力のある作品は余り発見できなかつた。かつて第14回展審査評で個々の作品内容に訴求力が乏しく、2、3点並ぶ同一作者の作品を切り離すと甚だしく迫力を弱める傾向のあることを指摘したが、今回もその感を強くした。

それらの中で、賞候補として残つた数点の作品などはそれぞれ意欲的なものであつた。星兼雄の「階段のある（崩壊1）」は昨年に続き再度の準大賞である。階段と裸婦のダブルイメージは作年のモチーフと同じだが一層充実感を増し、大賞を競つたが残念であつた。しいて言えば裸婦の表現にやや難点が指摘されるであろう。美術奨学会賞の「開発」の宮田翁輔は昨年も目にとまつた作者であつた。また同じ賞の「SCULPTING (f)」、特別奨励賞「地表で2」の武藤政彦はともに県展出品回数1,2回の新人であると言う。今後が大いに期待されるであろう。なお、入選回数13回のベテラン青木道夫の「神への供物」も入賞作品に劣らぬ作品として注目される。

施設の完備した美術館が地方に次つぎと開設されることもあるが、最近地方展が盛んになり、企画展、公募展とも内容的に高く注目されるものが多くなつた。言うまでもなく神奈川県立近代美術館は長い歴史をもち、秀れた企画展を続けることにおいて全国屈指である。また、この県美術展もその規模、内容において全国有数のものである。しかし、第16回をかさねた県美術展を省みて、洋画部門において過去の大賞受賞者を考えると、その後の伸び悩みの傾向がないでもない。すでに新旧交代の時期を迎えているかも知れない、県美術展を舞台に秀れた作家が輩出して欲しい。新人の台頭を期待したい。

国領經郎

- 審査員 国領經郎・阪本文男・弦田平八郎・土井俊泰・森秀雄
- 搬入点数610点(331人)・入選点数89点(87人)

〈版画〉

版画界は、かなり以前から多様化時代と言われ、個々の作品内容が、バラエティーに富んでいたように感じていたが、今回の応募作品をみると限りでは、多様化とは言い難い。

既存作家を下敷きに踏襲した狭い枠組の中で、没個性的な不鮮明さを投影しているケースが、かなり多く見受けられた。その基因は、版画はテクノロジー抜きでは制作が出来ないため、その指導を個人、学校等、専門の指導者の下で技術を習得する。その学習後、習得者側は独創性、応用性をプラス・アルファーして、独自性を充分發揮すべきだが、習得した技術のプロセスを、そのまま物理的に制作に転用している間に欠落した問題を含んでいる。更に、基本的な造型に対する作業の連続性に乏しさを感じた。

しかし、応募作品の中には未消化ながら、その発想の豊かさを充分感じさせた出品者、あるいは、抜群の造型力を持つた方も眼についた。

県展の審査に私が参加したのは、今回が初めてなため、過去の県展の内容と比較は出来ないが、16回展に限ると、入賞者（岡本道治氏、比留間良夫氏、日向野桂子氏、五島三子男氏）と入賞候補を含む、2点入選者のレベルはかなりの水準に達している。その表現力と発想の面白さは評価出来る。

通常一般的な版画コンクールは、神奈川県以外の都市でも数多く開かれている。その審査に参加した経験を踏まえて当展と比較しても、受賞者を含めた彼らの作品群は当然なんら遜色のない結果を得られる力量を待っている。今後の活躍が広く展開されることを注目したい。

又、一点入選の方々の中にも当然その芽を期待できるが、前に記した通り、積極的な制作活動の幅を広げることを期待したい。

残念ながら選に漏れた方は、主に趣味的な域を出ないケースが多く、基本的な絵画として版画に取り組む姿勢を更に強めて、次の挑戦を待ちたい。

尚、当展はもとより、昨秋開かれた神奈川版画アンテパンダン展にもうかがえるように潜在版画人口の層の厚さを持っている神奈川県の版画の将来に心強さを感じた。

天野邦弘

- 審査員 天野邦弘・斎藤カオル・斎藤寿一・柳生不二雄
- 搬入点数 124点(56人)・入選点数41点(35人)

〈彫刻〉

今年、第16回県展の彫刻部門では、昨年に比べて搬入点数の急増が得られ、誠に喜ばしい年になりました。しかも実材による大作も数点あり、数百キロの素材に取り組んで長期間にわたる制作は、心からの敬意をいただきました。恐らく、戸外に於ける制作であろうと、推察できるあとが見られます。

室外の厳しい天候のもとで、重い不定型の原材のなかから主題を求めていく作業は、汗にまみれた闘いだつたと思います。

彫刻はいずれの材料を用いても激しい労力をともなう仕事ですが、とりわけ女性の出品者が多数にあつたことは、今後の県展の彫刻に今迄にない役割りを果してゆく期待が持てます。又既成の材質にない、可塑剤と添加物で新しい質感を訴えてくる作品にも出会いました。これ等の出品者の人々の地道な努力と実験は、必ず、いつか、むくわれる日の来るこことを私は信じています。

限られた陳列面積の関係から、今年の搬入点数の急増はそのままやむを得ず、厳選になる結果となりました。その隘路として、できるだけ広い範囲の人々から選ぶことに審査方針は決定されました。古来、彫刻の素材は素朴なもので、そのなかから生命感を生み出すことは修練された高度な技法を駆使しなければなりません。しかも長期間にならざるをえない制作は、偶然の効果に期待することも出来ません。辛抱強い作業と何時も私は考えます。

今回受賞の宇野努作「閑」(美術奨学会賞)には、感情と表現が一体化して良い作品だったと思いました。松本雄治作「横たわる女(豊穣)」(特選)は、彫刻がもつ独特な量感が生かされたことで選考されたと思います。彫刻部門としては、他にも推薦した作品もありましたが票につながらなくて残念でした。今年の出品作はいちように明るくて、のびのびした感情に満っており、大いに今後に期待します。

長江録弥

●審査員 井上信道・長江録弥・三上次男

●搬入点数 51点(33人)・入選点数26点(23人)

〈立体造形〉

昨年、私ははじめて彫刻部門の審査員をつとめたが、そのときの審査は立体造形部門といつしょにあこなわれた。今年はどういう理由からか、両部門別々に審査されたが、他の地方ではとうていよべないような静けさたる顔ぶれをならべながら、いたずらにジャンルを細分化して審査するのはどうだろう、とわたしは少々疑問に思ったものだ。

それはともかく、立体造形部門の搬入点数は、前回も前々回にくらべて倍増したが、今回もかなりふえて45人の作品65点であつた。そのうち、28人の作品35点が入選となつた。質的にも、この部門に新鮮なエネルギーが結集し、神奈川県美術展のひとつの特色を形づくりつつある。

したがつて、今回の大賞が立体造形部門の和久井Who "HANGING"にきまつたのは、わたしからみれば順当な結果といえる。この作品は、床にたつた3つの弧状の金属パイプの上下端から、斜めにのびる細い金属線の交錯点に、分銅を宙吊りにしたもので、実体性をほとんど消去しながら、明確に計算され、しかも緊張をはらんだ空間を現出する。だが、授賞選考の最終段階で、一票差でぎわどく大賞となつたのは、その型破りな点が審査員たちにとまどいと不安をよびおこしたことを物語るだろう。特選になつた勝又豊子の『忘れられた一隅II』は、表面を褐色にさびつかせた鉄で、テーブル、椅子、窓枠をつくり、椅子の下と上には同じ材質で人間の足や尻のかたまりの痕跡ものこしている。これも重厚なオブジェとみて、ポップ・アート風の衝撃とユーモアをひめた空間をうかびあがらせる。

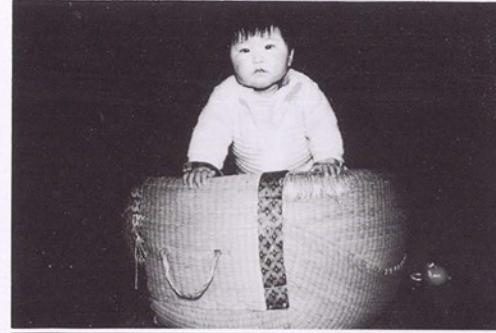
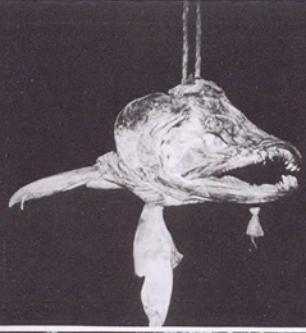
奨学会賞となつた大隅英雄の "Locus of wing" は、透明なプラスチックの箱のなかにプロペラやモーターのような装置を精緻に配置し、飛翔の観念そのものを纏包した印象をあたえる。立体部門の審査では、この作品こそ大賞候補というより声が高かつた。なお惜しくも受賞からはずれたが、窪田俊三のガラスを使ったコンセプチュアルな構築も注目された。

針生一郎

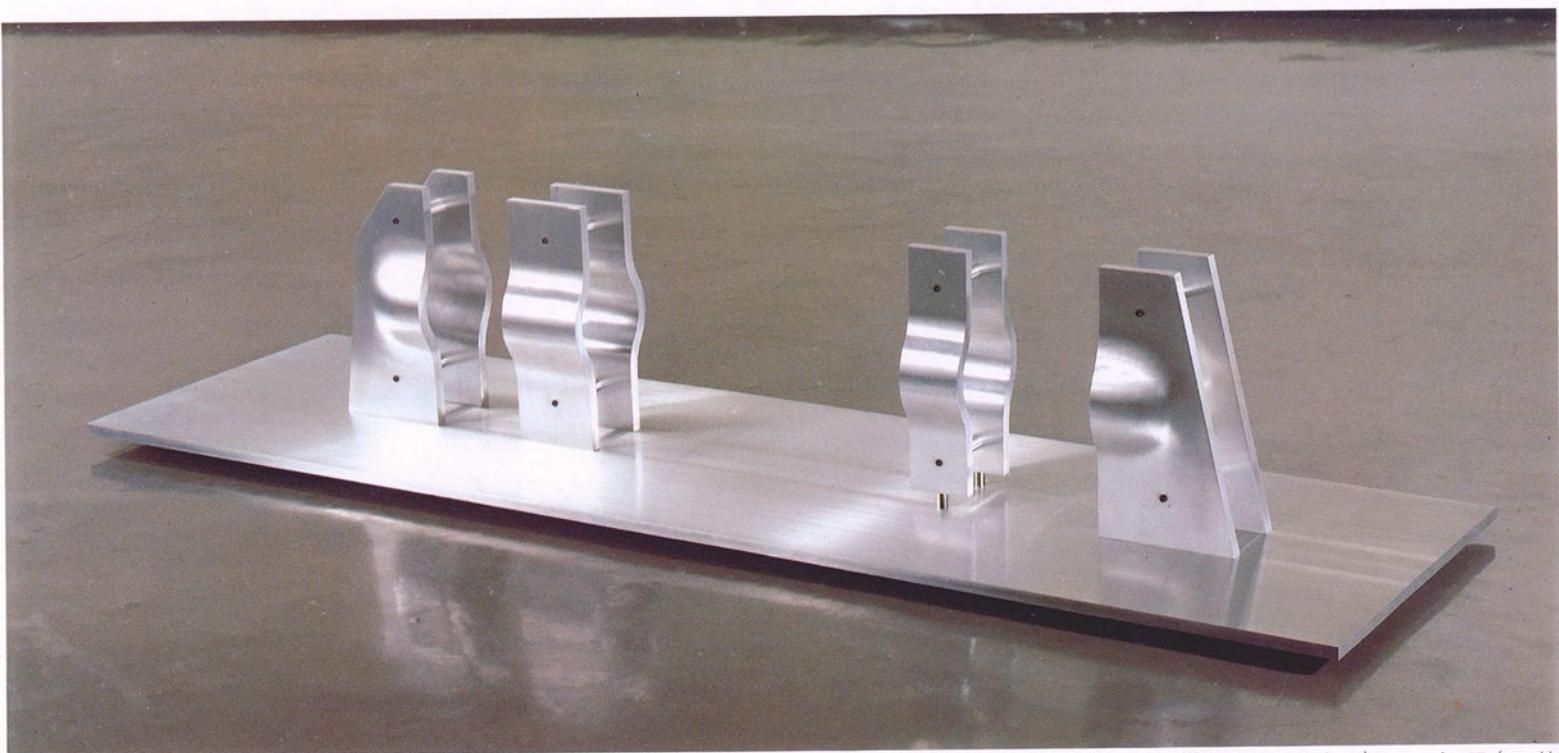
●審査員 斎藤義重・針生一郎・貞板雅文・望月菊磨

●搬入点数 65点(45人)・入選点数35点(28人)

工芸
書
写真部門



大賞 市原 欣一 ふるさと(写真)



準大賞 岩本圭司 気界(工芸)



準大賞 秦 美智子 1923年の女(工芸)

うの月にさかの月の初春の
うそやうの月の初春の

春之氣也布之於山川草木之謂也

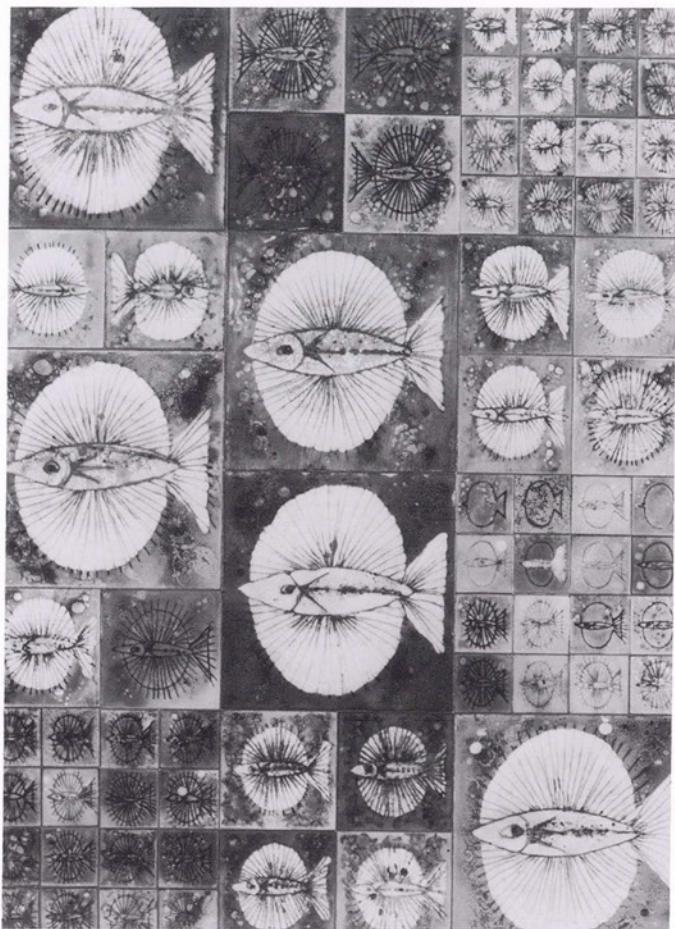
不以爲事也。子曰：「知我者，其惟爾乎！」

卷之三

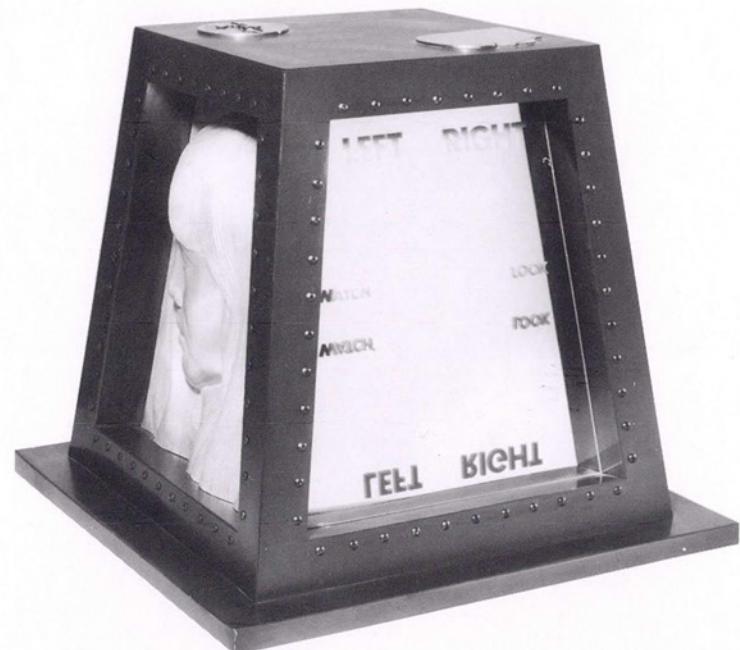
アラタナホアカニテ
ハシモトをもつてハシモト

卷之三

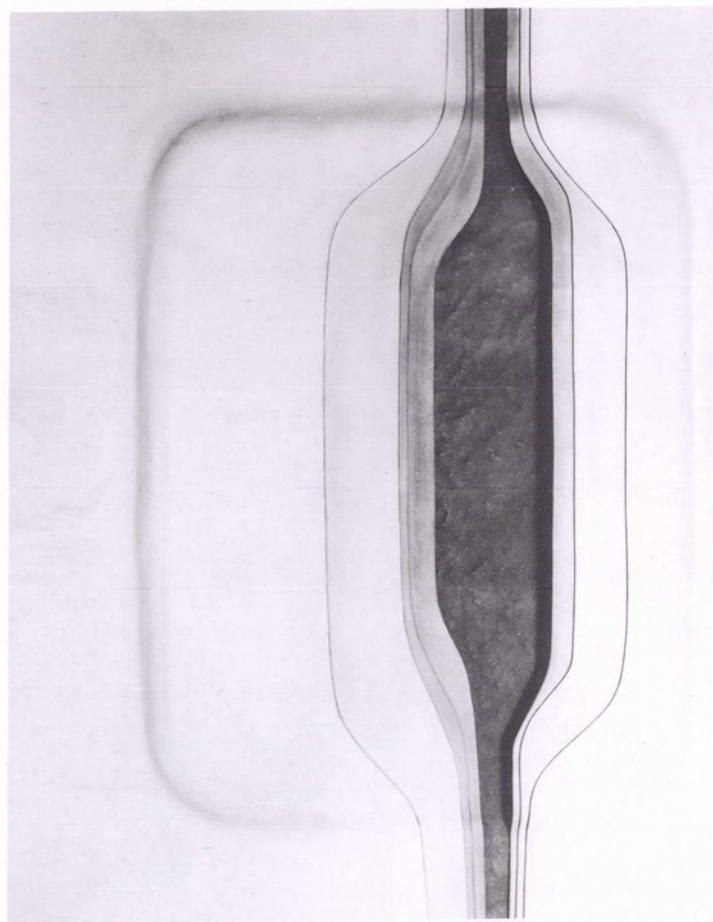
特選 石川 蒼丘 和歌あつめ(書)



美術奨学会賞 長田喜美子 魚(工芸)



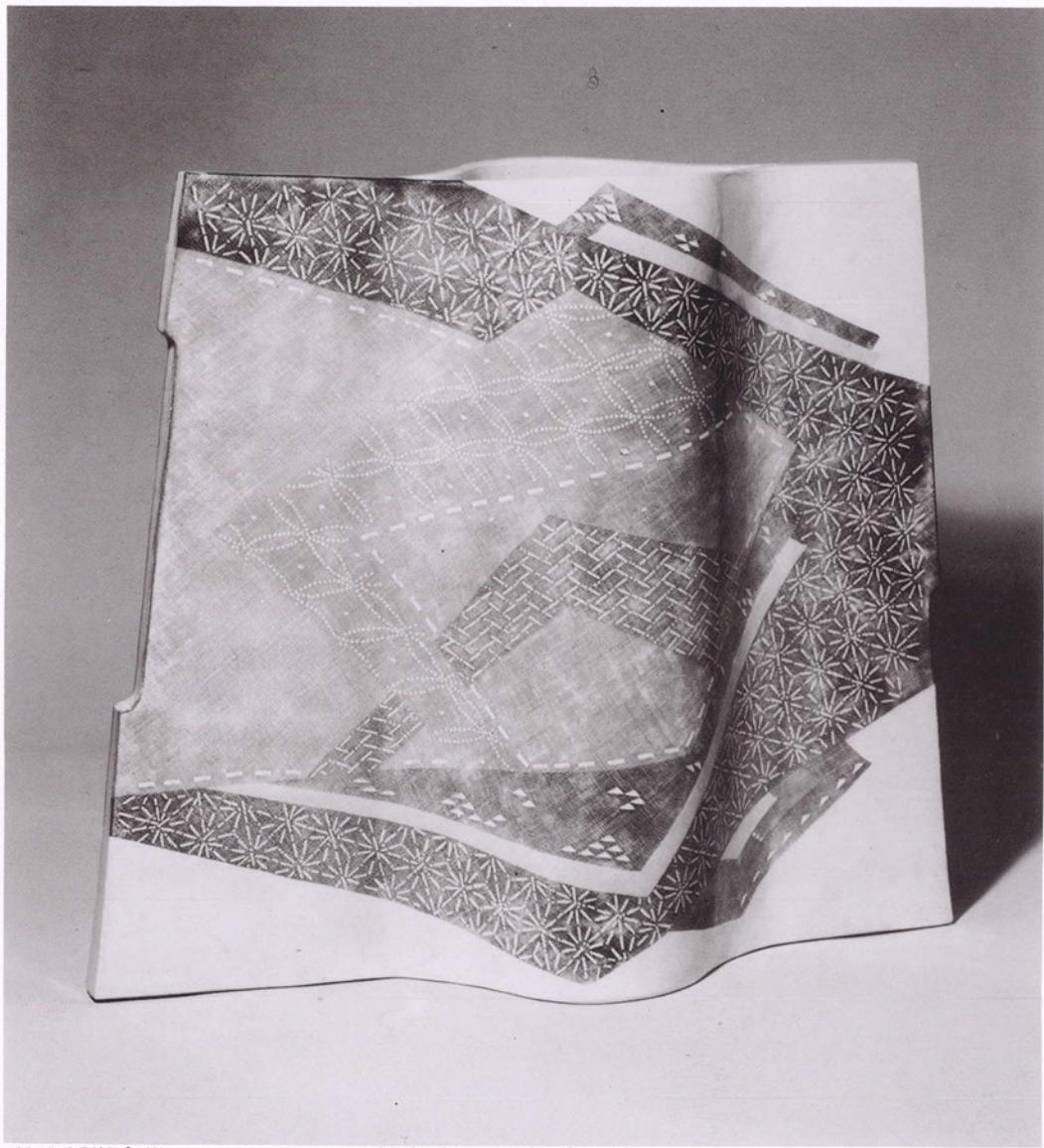
美術奨学会賞 勝 孝 PARABOX(工芸)



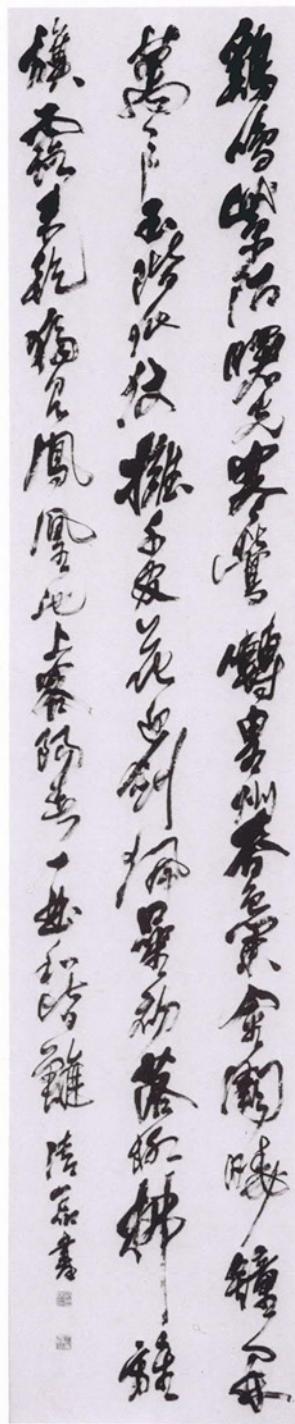
美術獎学会賞 松本 裕 IMAGE(工芸)



美術獎学会賞 林 亘 クリスタル花器(工芸)



美術奨学会賞 小峰枝美子 極込象嵌かたびら(工芸)



美術奨学会賞 藤野清嵩 岑参詩(書)

生草之根
沙岸五石
角骨一束
千叶紫枝
皮任青白
仙人立待
素芙蓉
君丈心隨
白鷺居平
洞天金口月
華玉臺粉
山上真君
海鷗不飛
詠余名信
漫談所夢
高生失笑
落石降知上
庭西北城之

美術獎学会賞 落合 正峰 七言古詩(書)

はなから
魚草の花
身を也まに
海山樓
三歳の家
一丈

美術獎学会賞 船本 芳雲 茂吉句(書)

笠與鷺比皆山鄉寒雪初迷陳雪曾將花賜我半株生發園林中
那夜夜深霜月照雞豚驚雀塞谷田麻峰裏覺曉薄才憲耕客
憩磚砌處時此人樂亦至如醉來而未可歌既待趁輶策舉舞時
更入無衰墨

重更無聲轉，難能高傳色澤深。曉以安一枝，其辭實復極兼收，似竹扇。

美術獎学会賞 高崎 錡 崑 高啓詩(書)

●西窗前有白鳥如人食粥，娘子自見已知，如何不省我。我見古家現畫衣裳，笑半紙爲口
腹。故一夕以鳥毛被白衣，道心尤尚。是晚想出家，遂道：「如之何？」平素鑿斷三界，不入
壞衣，有亦乞丐，因入寺中。和尚問作我適後朝聖，生女各有化緣。曰：「衣不辨，何以
障？」禪師曰：「無！」無抵忤，極歡喜。二堂不相顧，全頭打大謗。因循度日，暮歸外
面。遇禪師送他日耶娘。謂曰：「如舊。」固不肯言。荷日宿，入氣虎隊，躋名利路。多利
豫人，心無水。亦常持齋，阿彌陀自度。西壁元夜，何如化覺。苦誦佛，神永厭。道心因休。
爾如今一日無根柢，三界如客舍。人命——人命，兩如夢。日常失正法，忘形遇頽蕩。
精窮，母待梅。半生我。口說竟非好，心作自今。觀思量可改。
汝其亡失，鬼或一念也。子半生也。

美術獎学会賞 林 如 嶽 良寬詩(書)



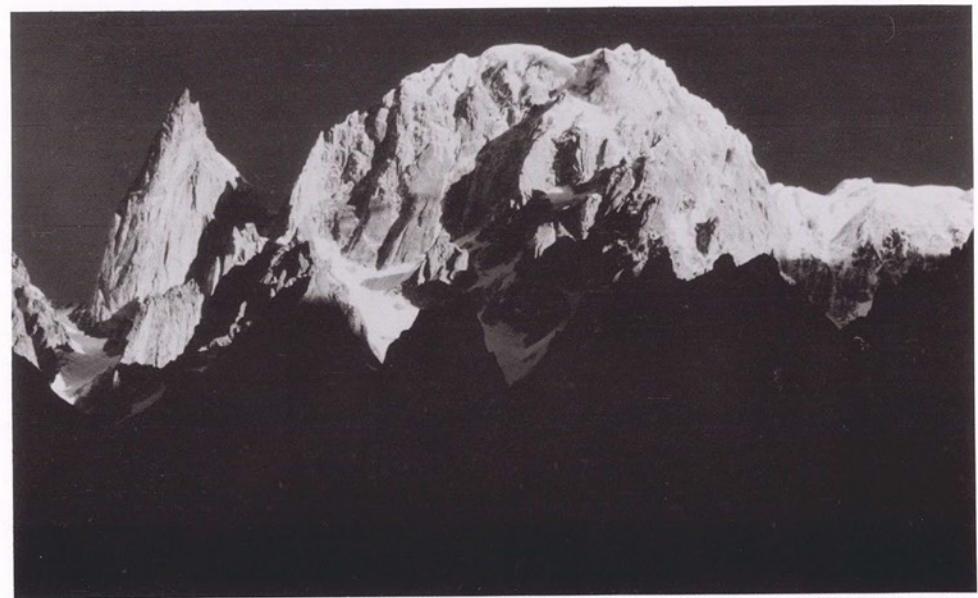
美術奨学会賞 片岡 順一 光芒(写真)



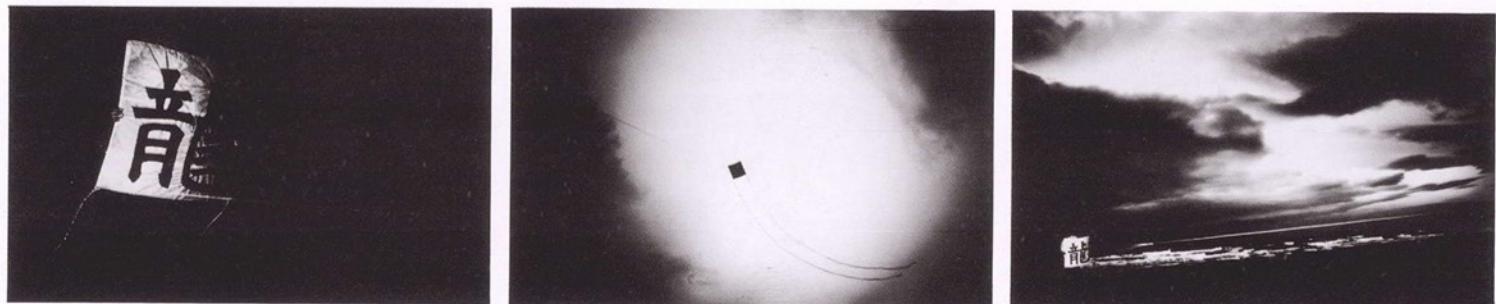
美術奨学会賞 今井 稔 日曜画家(写真)



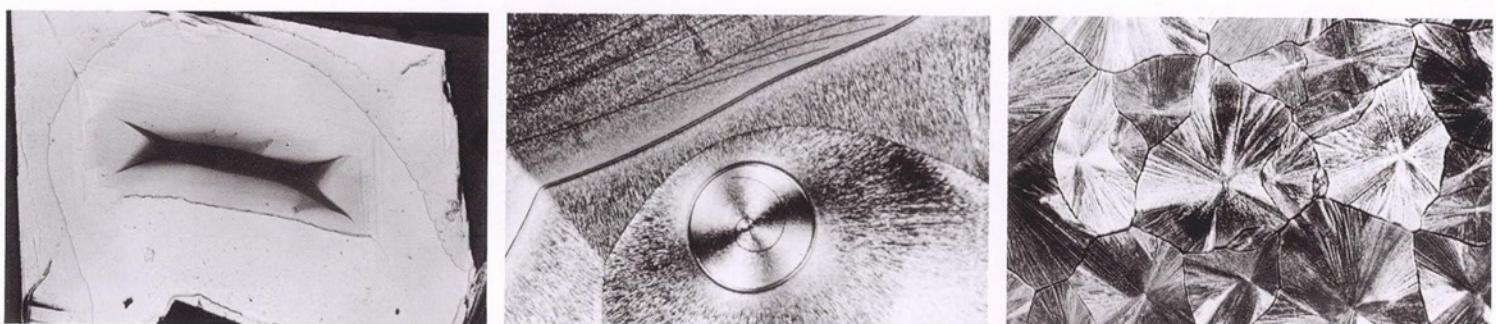
美術奨学会賞 倉又光顕 賭ける青春(写真)



美術奨学会賞 亀井貫司 輝きの山(写真)



美術奨学会賞 中西栄造 雲と風と(写真)



美術奨学会賞 矢島忠 ミクロの世界(写真)



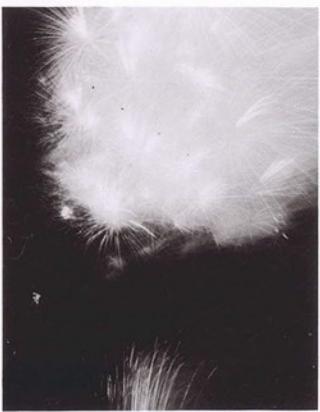
美術奨学会賞 加藤 惣平 箱根八里(写真)



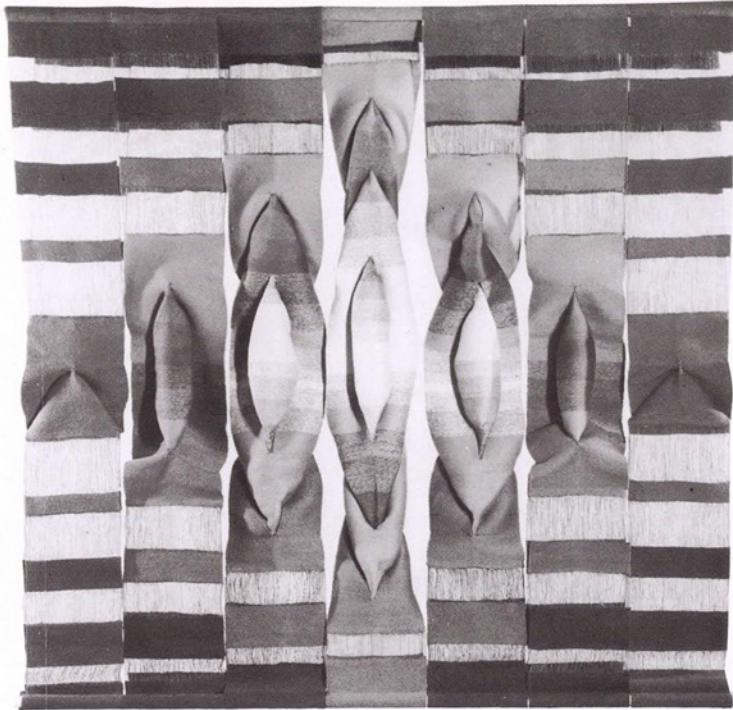
美術奨学会賞 木村 杏平 幽玄の賦(写真)



美術奨学会賞 菊地原俊二 青空天国(写真)



美術奨学会賞 臼井 孝 華(写真)



特別奨励賞 中野佳子 スペースデイバイダー炎(工芸)



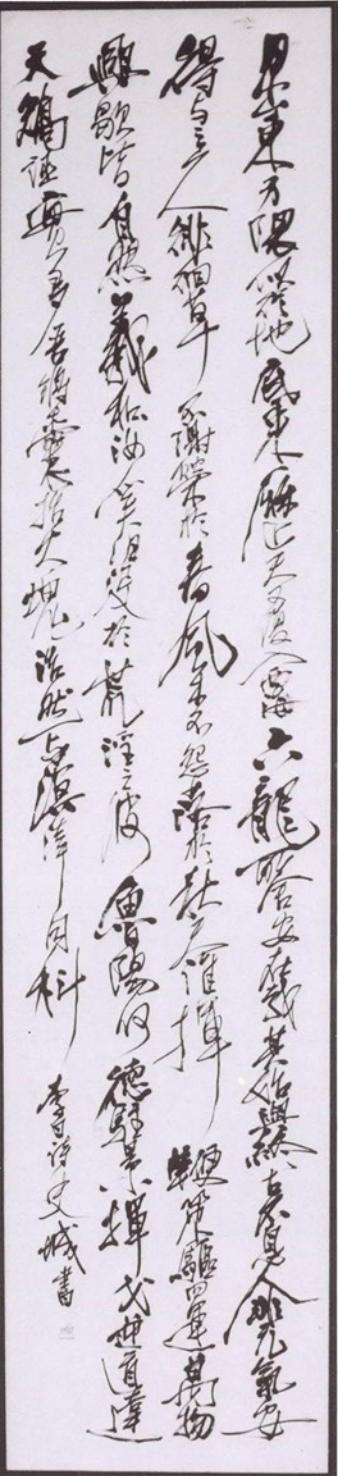
特別奨励賞 小磯弥栄子 潮(工芸)



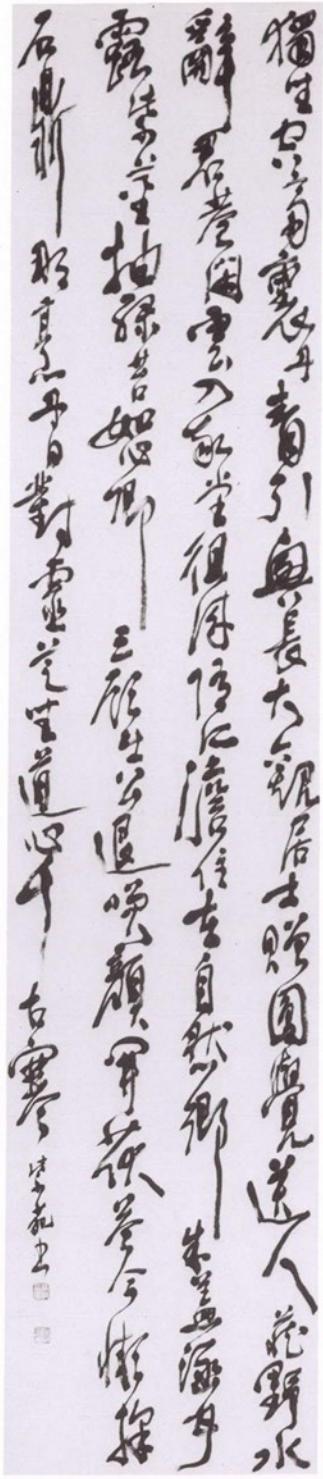
特別奨励賞 土川 松枝 紬着物(工芸)



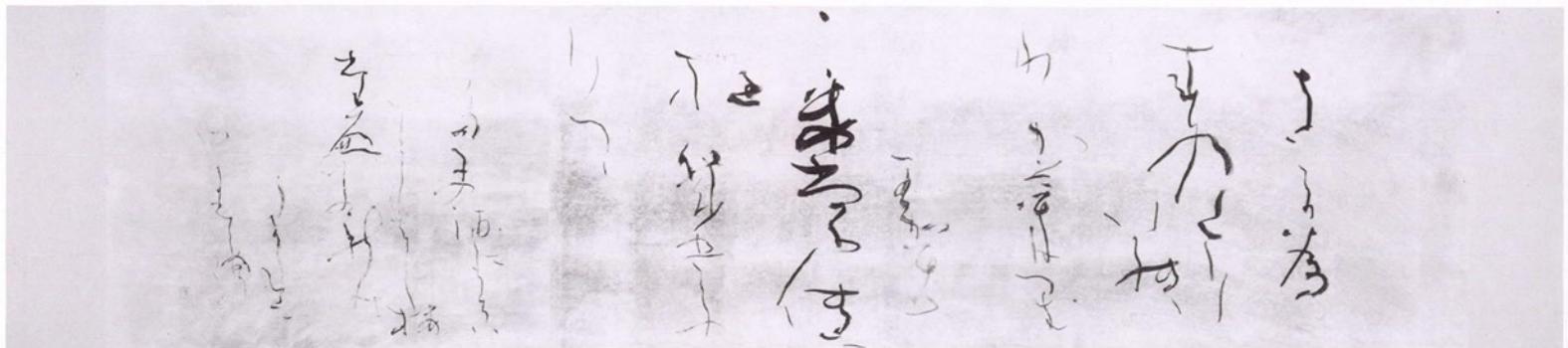
特別奨励賞 武田春比古 鉄赤釉壺(工芸)



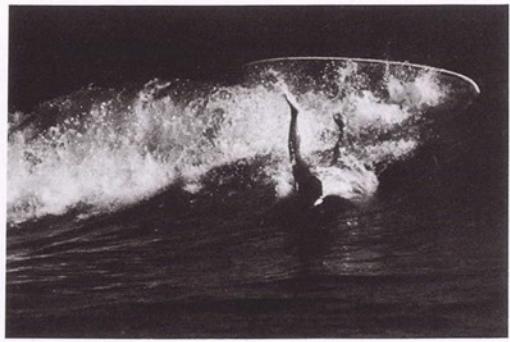
特別獎勵賞 大藤史城 李白詩日出入行(書)



特別獎勵賞 杉山紫苑 夏目漱石詩(書)



特別奨励賞 飯田美砂子 百人一首より ゆき(書)



特別奨励賞 山本梅吉 '80サーフィン(写真)

鶴鳴螺未至
鄆公是年未
宿此四年
別來湖音固
嘗念汝海雲
和梅最清音
刻種一聞君音
我空慕蕭辟
情鳥外絃猶
於鷺之國
春在山中曾
與此同其性
時云歲令是
秋明洞書

特別獎勵賞 柴岡明洞 劉長卿詩(書)



特別獎勵賞 川村栄 びん助三態(写真)

■受賞作品目録(工芸・書・写真)

■大賞

市原欣一 ふるさと(写真)

■準大賞

岩本圭司 気界(工芸)
葵 美智子 1923年の女(工芸)

■特選

石川蒼丘 和歌あつめ(書)

■美術奨学会賞

松本 裕 IMAGE(工芸)
林 哲 クリスタル花器
長田喜美子 魚(工芸)
小峰枝美子 極込象嵌カタヒラ
勝 孝 PARABOX(工芸)
藤野清嵒 岳参詩(書)
船本芳雲 茂吉句(書)
落合正峰 七言古詩(書)
林如巖 良寛詩(書)
高崎鍶嵒 高啓詩(書)
片岡順一 光芒(写真)
今井 稔 曜曜画家(写真)
倉又光顕 賭ける青春(写真)
鷺井貫司 輝きの山(写真)
矢島忠 梅口の世界
中西栄造 雲と風と(写真)
加藤惣平 箱根八里(写真)
木村杏平 幽玄の賦(写真)
菊地原俊二 青空天国(写真)
臼井 瑛 華(写真)

■特別奨励賞

小磯弥栄子 潮(工芸)
土川松枝 紬着物(工芸)
笛野佳子 スペースティバ
武田春比古 ダー炎(工芸)
犬藤史城 鉄赤釉壺(工芸)
杉山紫苑 李白詩 日出入行
柴岡明洞 (書)
飯田美砂子 夏目漱石詩(書)
川村栄 劉長卿詩(書)
山本梅吉 百人一首よりゆき
びん助三態(写真)
'80サーフィン (写真)

■入選作品目録

〈工芸〉

金子菜生 SYNCOPATION
永井ひとみ 水中の戯れ
山内雅夫 青磁花器
門田ヒロ子 人形
山本恵美子 宇宙からようこそ
小林望子 熱砂
横井えり子 樹のメロディー[▲]
荒川みはる 遠い樹
加藤説子 あとずれ
木村郷子 風を超えて
関谷尚子 ふくろう(小さな愛)
小林公子 寧日の咲き
柴田雅子 草木染着丈
帯
乗松清子 晩夏
中沢秀 黒い国の紋章
中沢七郎 ノアの歡喜
秦敬子 雲文紋半月皿
芥川美千代 グラビュール花器
久野正雄 作品80-10
斎藤由一 秋
佐野陽三 小鳥文邦附運盆
岩沢健吾 body
渡辺恵美子 メッセージ
内田悦代 遠い夢II
渡部はつ子 ふなうた人形
原田光子 斜線のある形
宮道ユキ子 菱形紋朱色盛器
野上桂子 射る
山田美穂子 Time
加島登美子 葉紋七宝壺
村主武 簡素I(動)
平岩共代 花器
加納長作 縫上壺
三島真人 燐雨
永井ゆり NEKONOMACHI
足立治男 縫上げ「霧氷」
中谷安子 シャイロップのいたみ

石川武士 円の時間帯
出繩高昭 あとずれ
大川久枝 彫金レリーフA
山村助成 天体の神秘ABC
滝川政之 静かなるあかり
中村ミ工 落葉の会話
大石又三 鐘 破扇
小林信子 染額「月明り」
咲田卑弥子 泰山木A
久保かよ子 黒い鳥
村本なおみ W.H.80'
林菜美 The Fireplace
奏峯夫 魚影(ブロンズ)
鈴木亘 縫上壺
田野佳代子 ようこそ"YOKOSO"
関口洋子 樹映
村木邦久 現代の抱擁
山田御秩子 face
佐々木愛子 赤青黄
夷塚伸子 COSMOS(宇宙)
佐藤のり子 タイピストリー-80
菅沼三千子 拭漆棒造四方鉢
大内璋 クリスタルガラス花器
勝文彦 白い形態
江成房子 わあーお母さんだ
菊池さち子 紹訪問着
岡田穂 貴裂器II
森田洋子 陶壺「朝靄」
池田篤子 1936 BUBBLEGUM COMPANY
桜井敏春 織部獅目皿
小林端江 風のむこうがわ
中尾雅子 タピストリー
山本多江子 MOMENT VO.11
大槻昌子 銅銀象嵌丸箱
岡本裕子 アンダンテ
高田美保子 無
後藤よし江 山路
三輪博子 望郷
斎藤典子 二月堂II
青木博美 赤と黒

〈書〉

栗 橋 東 崖 般若心経
 上遠野富久子 黄庭堅の詩
 香 掛 和 絵 来ぬ人を
 五 味 彩 翠 黄山谷詩
 田 澤 兆 処 左太仲詩
 菅 野 堯 処 高青邱詩
 森 草 坡 菅原道貞詩
 尾 崎 静 鳳 蘇軾詩
 鈴 木 蓉 処 李白詩
 原 茜 処 黄庭堅詩一首
 近 藤 春 柳 羅隱詩
 谷 口 春 泉 蘇東坡詩
 鎌 田 栄 処 趙嘏詩
 吉 田 翠 山 貢休詩
 生 島 静 月 元好問詩
 奥 田 大 岳 劉滄詩
 佐 藤 柚 処 李長吉詩夜來樂
 奥 翠 月 李嘉祐之詩
 田 村 青 幽 蘇東坡の詩
 田 村 松 石 白居易の詩(長恨歌)
 東 鈴 峰 唐彦謙之詩
 吉 村 瑞 枝 董源蘆湘図巻跋外
 大 屋 梢 香 張籍の詩
 鈴 木 青 華 嵩維の詩二首
 田 中 照 峰 嚴綸七律五種
 加 藤 翠 鄉 白樂天太行之路
 橫 田 南 畦 張九齡詩
 西 田 静 夫 杜審言詩
 早 瀬 香 谷 良寛詩
 南 茗 陽 明人六言詩三首
 塚 越 博 寒山詩
 星 光 陽 漱石詩
 小 川 紫 流 唐詩
 阿 部 跳 龍 漢詩
 吉 沢 菁 莎 謝靈運の詩
 阿 部 紅 雪 王昌齡詩
 柴 田 李 珪 陶淵明詩
 富 田 象 涛 王安石詩

蛭 田 秀 雲 王右軍聖教序
 野 頭 莊 雲 謝靈運詩
 結 城 義 雄 廬司勲員外に寄す(李頃)
 座 間 たみ子 西条八十詩「母の唄」
 杉 山 幽 翠 三好達治詩「人をおもへば」
 川 島 喜代美 七言絶句李白詩
 番 野 翠 香 李白の詩
 栄 原 耀 雪 七言絶句(江行)
 浜 本 茂 山村暮鳥の詩
 酒 井 玉 蘭 代悲白頭翁
 嶋 田 匠 峰 松汀駅
 秋 本 耀 雨 雪の嶺
 富 岡 登 鄭風「湊洧」
 古 沢 幸 夫 幸蜀西至劍門
 野 田 翠 蘭 螻蛤日記
 柳 原 修 八木重吉詩わが兒」
 石 川 藤 子 散る日
 荒 卷 久 恵 水上赤鳥のうた
 田 中 明 子 やなせたかし詩
 福 島 霞 葉 中原中也詩
 清 水 金 次 近代詩文
 石 井 富 代 からまつ原
 森 山 可 余 一茶の俳句
 大 木 晓 田中冬二詩
 川 瀬 魚 石 うつくしい小鳥たち
 斎 藤 湖 石 ひかりの蝶よ
 大 村 雅 子 島崎藤村詩「小詩」より
 萩 村 迪 与 谷川俊太郎詩「組立」
 相 馬 彪 花 立原道造詩「のちのおもいに」
 普 川 清 子 中原中也詩
 土 田 武 子 三好達治詩「頬白」
 為 井 蘭 葉 野口雨情詩「赤い靴」
 石 坂 雅 彦 唐風枕杖
 黒 岩 佐 和 子 五言絶句
 大 畑 薫 昭 土屋文明のうた
 木 下 薫 葵 和歌二首
 明 石 薫 州 白秋の歌
 竹 田 華 堂 臨桂本万葉集
 北 島 芳 谷 石川郷仏説弥鞍成仏経
 桟 敷 東 石 臨筋切
 中 澤 碧 恵 臨桂本万葉集
 美 和 肖 光 臨筋切
 秋 山 尚 悅 万葉秀歌
 清 水 洋 子 小倉百人一首より
 曰 野 珠 光 伊勢物語
 土 山 杏 雨 本阿弥切
 松 橋 秋 塘 新古今和歌集
 松 岡 梅 影 泉 式部
 山 辺 静 塘 新古今和歌集
 荒 井 寿 遼 同題仙遊觀
 杉 山 美智子 崔顥詩黄鶴樓
 瀬 戸 美代子 高適詩
 中 村 蒼 汀 杜甫詩
 小 沢 採 春 李賀詩
 斎 藤 杏 花 劉滄詩
 武 田 清 美 韓愈詩
 熊 谷 恵 子 杜甫詩
 豊 崎 ふみ子 一条攝政集
 登坂 天 夢 高適詩封丘縣
 松 田 松 遼 和歌一首
 平 田 十 卧 李峯詩
 栗 原 笄 如 良寛の詩
 石 井 澄 水 柳宋元詩
 安 藤 墾 穂 李賀詩
 橫 山 芳 碩 袁宏道詩
 小 卷 仙 空 陳子昂之詩
 池 田 撫 草 杜甫の詩
 神 谷 芝 崑 許渾の詩
 山 口 清 瞳 杜甫詩
 筒 井 崑 影 李賀詩
 河 合 瑞 祥 杜甫二詩
 安 藤 青 山 陶淵明詩
 井 川 益 子 御物和漢朗詠集(天)
 小 関 英 子 古今集(秋のうた)
 飯 田 文 夫 杜甫詩
 秋 山 松 香 北原白秋の歌
 伊 藤 翠 香 太田水穂の歌
 入 澤 八 祥 贈蘇味道
 小 宮 右 幸 黄山谷「松風閣詩巻」臨
 模 原 右 鳳 傅山臨
 木 須 青 苑 黄山谷之詩
 佐 藤 緑 羊 李白古風

大矢鳳城　自詠詩「明星晨之詩」
金子裕子　曼珠沙華
長島正恵　万葉集四首
柳澤弘子　あきはぎの
矢追章子　琵琶湖
山本花聲　唐詩
山田愁風　金冬心詩
八島幽月　胡鼻山
三津木芝影　荃樓尺牘
原田義鳳　董其昌詩
稻垣隼人　米万鍾
須貝越葉　翁方綱
三上光雲　唐詩
菅原秋峰　杜甫詩
松永光鳳　徒然草

〈写真〉

原　進　幽玄の賦
片岡順一　青い衝撃
大津　基　湿原
河合勝平　ミナトの華
関　勇　裸の姉妹像
高野捨吉　栄光と興奮
千屋栄市　ビル
山形高靖　流鏑馬神事
三井文一　富士雲
上原公平　雷光
人見治雄　花火
清野政憲　祭りの日
松谷真二　山手暮色
西村建子　国慶祝
矢野和夫　晩秋
斎藤和年　老舗
堀江忠男　ファミリーフレンド
六郷政彰　街角にて
松浦好雄　多摩川讃歌
(spring now)
青山　明　北国／夏の祭り
千葉久男　はねと

山口敏雄　群
唐戸弘邦　夏の光
古和口次男　参拝の群集
榎田　守　初冬の養鶏場
横山祥一　作品
　　秋の沼
望月勝美　水行
堀坂和夫　躍動
吉見保夫　渚
佐藤力三郎　秋の湖
藤原義守　MISS RINDA
青地則明　遊び仲間—ロンドン—
吉田一雄　地蔵さまのまつり
渡辺京子　横高ばんざい
栗原寅吉　雪国
石川昭朗　ベリカン
戸塚吉久　水辺の詩
越川敏子　歳月
木村芳雄　浅草の菊まつり
相原明文　岩峰
小室　宏　戯
加山邦輔　村の娘
増田智生　群集のユリカモメ
神山吉正　北の海
湯口栄二　奥日光の秋
春木正甫　荒行
益子七郎　風薫る里
松川忠夫　露坐のみほとけ
臼居一雄　村祭り
相沢正一　只今療養中
小林富一郎　海の安全豊漁の祭り
(伊東市新井港)
伊藤孫治　夜明けの参道
青木繁雄　出番待ち(ドッグショウより)
大島一兵　肖像画店
　　サイン
望月従道　秋祭りの日
石渡四郎　街角(佃島にて)
山下昭雄　村芝居
松江民雄　腕白坊主
佐々木孝義　原宿ストーリー
　　警備本部

香山　修　水鳥のファンタジー
梅田　修　白鳥の郷
本間英夫　神輿城郷
平綿良則　牛飼い(オーストラリアの印象)
長坂茂太郎　祭りの日
竹内光貞　沖縄
安部正之　夕まぐれ
石川　清　拾われた子猫
仁平　廣　水子地蔵
秋元　毅　日本びいき
松野欣子　子供かぐら
青田吉生　基地のまつり
(キャンプ上瀬谷にて)
今崎尚志　川下り
星　栄寿　厳寒の桂川
今村重明　樹林
田島　仁　残照のマウントケニヤ
松山　秀　ひとみ
勝俣晃男　怪
根岸克明　薄暮
小宮信幸　元旦の舞い

■審査経過

〈工芸〉

第16回展の工芸部門は、181人による252点が搬入された。これは前回の180人による260点と比べると、応募者数では僅かに上回り、応募点数ではいささか下回ったことになるが、入選した作品の数が前回は106点であったのに対し、今回が89点というのはやや厳選された結果といえるだろう。

今回の審査を担当して先ず感じたことは、極く限られた優秀な作品のほかは、大体のレベルが似たり寄つたりであつたから、入選作品の平均価値はそう高い水準とはいえないということである。中でも、特に搬入点数が多くつた割に入選点数が少なかつたのは陶芸であるが、これは造形感覚の上で現代から遊離しているもの、或いは伝統というものを履き違えているものがいささか目立ち過ぎたからだと思う。それにこの陶芸というのは、素材の粘土が自由に造形出来る割に、釉薬の選択とか、窯焚きの仕事が至つて難かしいことにもよう。こと陶芸に限らないが、要は伝統的なものにせよ、創作的なものにせよ、もっと単純で明快な形を考え、それを素直に表現してもらいたいものである。

投票のあと、その結果だけに頼らずに審査員が活発に意見をたたかわせて厳選し、89点の入選が決められたわけであるが、次の賞の選考では、前記したように優秀な作品が限られていたせいか、極く自然に下記の作品が選ばれたのである。

(大賞候補)二点 岩本圭司(藤沢)の「気界」(金属)、秦美智子(藤沢)の「1923年の女」(染色)、(美術奨学会賞候補)五点 小峰枝美子(葉山)の「かたびら」(陶芸)、長田喜美子(横浜)の「魚」(七宝)、松本裕(横浜)の「IMAGE」(皮工)、林亘(横浜)「クリスタル花器」(硝子)、勝孝(真鶴)の「PARABOX」(金工)、(特別奨励賞候補)四点 中野佳子(横浜)の「炎」(染織)、小磯弥栄子(鎌倉)の「潮」(人形)、土川松枝(藤沢)の「細着物」(染織)、武田春比古(座間)の「鉄赤釉壺」(陶芸)の以上であつたが、最後に別室で行われた工芸、書、写真の三部門による大賞、準大賞、特選の総合審査において、工芸部門は惜しくも大賞を逸したが、岩本圭司君と秦美智子さんが共に準大賞を獲得されたことは同慶にたえない。この結果、それ以下の賞候補は総てそのまま順当に決定したのである。

吉田耕三

●審査員 各務鎌三・佐々木ゆき枝・佐野登志子・芝山吉邦・蓮田脩吾郎・山岸南子・山口寿雄・吉田丈夫・吉田耕三・綿貫清

●搬入点数 252点(181人)・入選点数89点(88人)

〈書〉

書部門に於ける出品点数はここ数年来増加の一途をたどり、本年もまた219点という公募点数である。鑑別に当つて総括的な印象としては、昨年度より一段の向上の跡が窺える。これはまことに喜ばしいことで、単に数の増加のみに留まらず、その内容が両々相俟つて来たことは、本県の書道レベルの上昇を裏付けていよう。さて鑑別に当つては、かなりの厳選ということになって、十全の配慮の下にこれを行つたが、不運にも落選の方々は残念ではあるが、再度を期して戴きたい。

本年の特徴の一つとしては「仮名」作品に優れたものが多かつたのが印象に残る。又、「近代詩文書」作品は、年次定着の度を増し大らかで然も風趣を持つた傾向のものが多かつた。

入賞作品の個々については、類型的なものが多くなく、極めてバラエティーに富んでおり、特選の石川蒼丘君の作品は古典のたたずまいを内に秘め乍らよく新しい形態の下に、八十数首という内容を亂れもなくまとめ上げた力量を高く評価したい。この他の入賞作品は、それぞれ個性的なものを充分發揮し、見応えのある高度な練度を示すものである。

殿村藍田

●審査員 青木香流・大島嵩山・島津碧嵐・竹田悦堂・溪口幽城・殿村藍田・西川万象

●搬入点数 219点(219人)・入選点数145点(145人)

〈写真〉

じっくり自分のモチーフを掘りさげて精魂こめた作品もあり、肩をはらずに軽いタッチで巧みに表現するいき方もある。どちらが上か下かなぞときめられない。どちらの方法でもいいので、その作品を鑑賞する人に、いかに感銘をあたえるかでその評価がきまるのだ。

三部門での大賞を獲得した市原欣一氏の「ふるさと」は、作者がここ数年ライ自然而的撮影しつづけてきた岩手県遠野地方の農村もの。遠野村を描きながら、日本全国の農村を象徴して表現したのが素晴らしい。柳田国男氏が、「遠野物語」で日本中の怪奇民話を遠野部落に集結した手法を、うまく使つたのに感心した。外からみた農村ものではなく、五穀豊穣を祈念する農民の気持になって創られている。まの写真である稻穂を写した一枚が、じつに効果的にきいた。

加藤惣平氏の「箱根八里」は、東海道五十三次の時代のイメージを感じさせる作品で、世の中の変遷がびしい御時世に、昔ながらの風景が温存されている箱根を題材として箱根八里を現出しようとするこの作者一流の趣向が素晴らしい。老練なテクニックで、巧妙に写真化している。木村杏平氏の「幽玄の賦」も、鎌倉薪能を、おそらくしげに創りあげて、雄渾の幻影をただよわせた佳品である。舞台の能にはない薪能のロマンチズムをよく促している。片岡順一氏の「光芒」は、航空機会社に関連した人ときいているが、航空機ものを撮らしたら神奈川県随一であろう。今回の作品も迫力があった。なんといっても、飛行機には夢がある。今井穂氏の「日曜画家」は、明治の赤煉瓦の倉庫のある新港埠頭で、へんてこりんな格好をした女流画家と対照的な港湾労働者との取り合せは、喜劇の舞台をみるようだ。事実は小説よりも奇なりである。倉又光顕氏の「賭ける青春」山本梅吉氏「'80サーフィン」臼井孝氏の「華」は、それぞれに自分のモチーフを撮りつづけている作家で、作品にその安定性と力量感があつて完璧だ。矢島忠氏の「ミクロの世界」は、かつて本県のミクロ写真の泰斗の浅野明氏の出品があつたが、久方ぶりのミクロ写真である。亀井貴司氏「輝きの山」中西栄造氏「雲と風と」川村栄氏「びん助三態」菊地原俊二氏「青空天国」は、それぞれいいところを的確に描いていた。

奥村泰宏

●審査員 奥村泰宏・岸哲男・白井達男・常盤とよ子・浜口タカシ
●搬入点数 318点(162人)・入選点数165点(92人)

■大賞受賞者

第1回 40年度 大森運夫「九十九里」日本画

第8回 47年度 林 良達「騎士」工芸

第2回 41年度 廣瀬義男「作品I」洋画

第9回 48年度 河原 明「蜻蛉」彫刻

第3回 42年度 垣内治雄「坐る」彫刻

第9回 48年度 石川充宏「Girl in Chair」工芸

第4回 43年度 川村直子「69-A・69-B」洋画

第10回 49年度 大山 鎮「語り」日本画

第5回 44年度 山井イク夫「Lady 70-1・2」立体造形

第11回 50年度 鎌田恵子「Lost my way」工芸

第6回 45年度 伊藤彬「天涯巡礼」日本画

第12回 51年度 泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」洋画

第6回 45年度 大久保利圏「作品I」工芸

第13回 52年度 井上麦「黒の女-'77」彫刻

第6回 45年度 西川万象「慮子諒詩」書

第14回 53年度 坂田一之「MIRROR」立体造形

第6回 45年度 加賀谷武男「NONSENSE ZONE」写真

第15回 54年度 前本利彦「暗い部屋I・II」日本画

第7回 46年度 中西新太郎「落日」洋画

第15回 54年度 川口流坡「菅原道真詩」書

第7回 46年度 島津碧嵐「寒山詩」書

第16回 55年度 和久井Who「HANGING」立体造形

第7回 46年度 大谷正夫「師ミス・サンダー(フェリス女学院)」写真

第16回 55年度 市原欣一「ふるさと」写真

第8回 47年度 佐々木英夫「人間の風景I・II」版画

■第16回神奈川県美術展委員会組織

■顧問

〈日本画〉

小倉遊亀
中島清之
山本丘人

〈洋画〉

小山敬三
斎藤義重

〈彫刻〉

圓鏡勝三
高田博厚
安田周三郎

〈工芸〉

赤地友哉
各務鑑三
蓮田脩吾郎

〈書〉

殿村藍田
比田井南谷

〈写真〉

影山光洋
(順不同)

■委員会委員

委員長
上野 豊

副委員長
李家正基

神戸由雄

菅原寿雄

竹田道太郎

土屋利保

土方定一

三上次男

吉田耕三

加藤東一

国領經郎

斎藤寿一

井上信道

三上次男

斎藤義重

針生一郎

土方定一

(順不同)

■大賞・準大賞 選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

加藤東一

竹田道太郎

国領經郎

弦田平八郎

斎藤寿一

柳生不二雄

井上信道

三上次男

斎藤義重

針生一郎

土方定一

(順不同)

〈工芸・書・写真部門〉

各務鑑三

蓮田脩吾郎

青木香流

殿村藍田

奥村泰宏

白井達男

菅原寿雄

土屋利保

李家正基

吉田耕三

(順不同)

■審査員

〈日本画〉

片岡球子
加藤東一
工藤甲人
竹田道太郎

〈洋画〉

国領經郎
阪本文男
弦田平八郎
土井俊泰
土方定一
森秀雄

〈版画〉

天野邦弘
斎藤力オル
斎藤寿一
柳生不二雄

〈彫刻〉

井上信道
長江録弥
三上次男

〈立体造形〉

斎藤義重
針生一郎
真板雅文
望月菊磨

〈工芸〉

各務鑑三
佐々木ゆき枝

■実行委員

〈日本画〉

佐野登志子
芝山吉邦
蓮田脩吾郎
長谷部満彦
山岸南子

〈洋画〉

山口寿雄
吉田丈夫
吉田耕三
綿貫清

〈書〉

青木香流
大島嵐山
島津碧嵐
菅原寿雄
竹田悦堂
溪口幽城
殿村藍田
西川万象

小林義範
白鳥三郎
内藤雅彦
今関一馬
吉崎道治

〈版画〉

柄木順子
田島宏行
由木礼

〈彫刻〉

垣内治雄
河原明
陶山定人
松田喜三郎

〈立体造形〉

鈴木明
高橋勝
原田和男

〈工芸〉

飯野啓三
石川充宏
石塚直治
鎌田恵子
木内たかお
近藤育世
菅間ゆみい
安田律子
渡辺はづ子

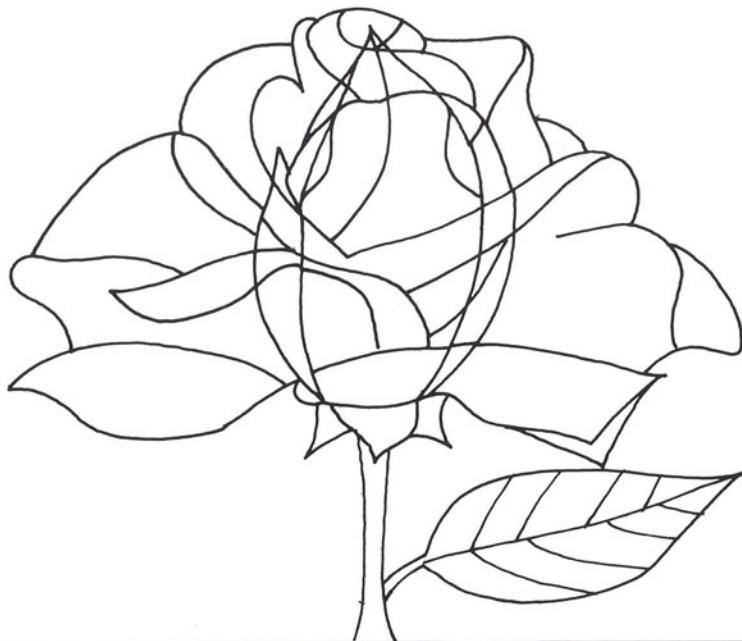
〈書〉

池上鶴洋
重田翠村
仙場右羊
萩原櫛風
吉田蘭處
矢島撫周

〈写真〉

大谷正夫
鈴木健夫
鈴木登美太郎
中島倍三
野沢喜七
平本昌義
吉田健吉郎
(50音順)

財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といったしく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

■■■■■ 事務局(申込先) 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111内線2264 ■■■■■

彫刻の森美術館

休館日なし
箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車
TEL 0460-2-1161



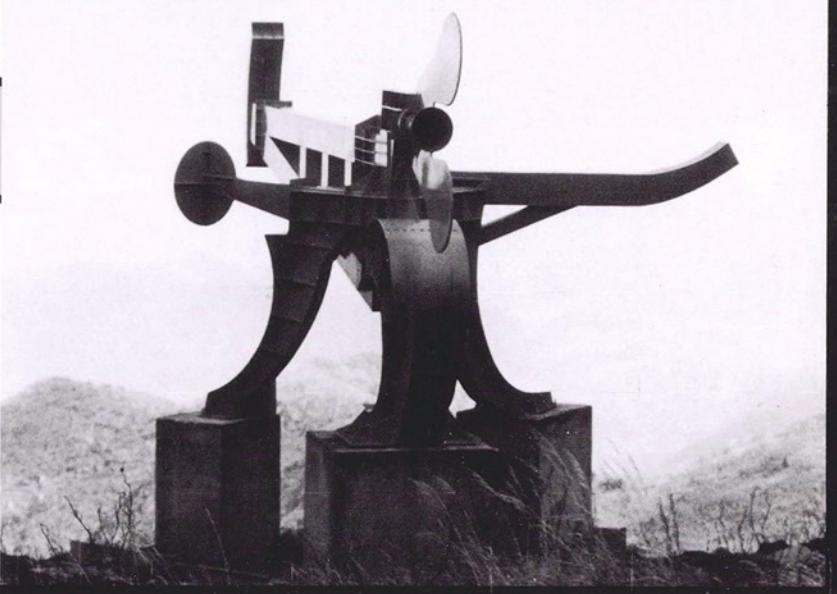
マンスルーム

美ヶ原高原美術館

1981年6月6日開館

美ヶ原高原美術館は、箱根彫刻の森美術館の分館として、ビーナスラインの開通にあわせて、56年6月、海拔2000m、360度の眺望をもつ長野県美ヶ原に開館します。

ルジンブル《スズメヲウツノニタイホウラモチダス》1969





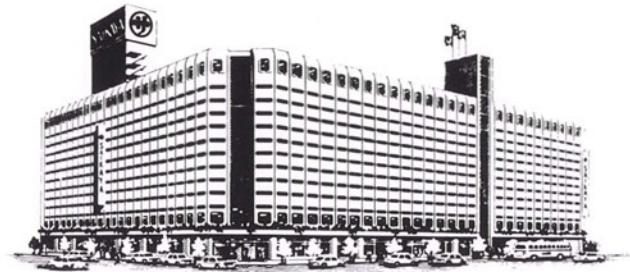
LIVE COLOR

生きている。

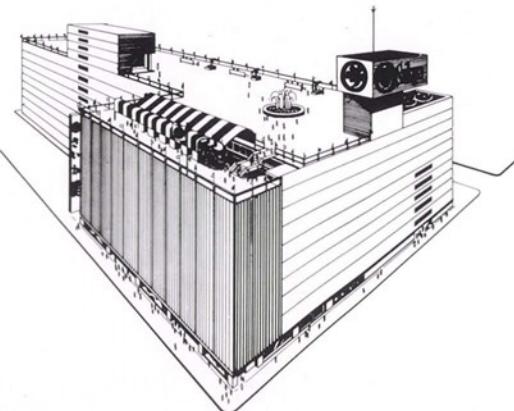
みんなの笑い声が聞えるような、木々の緑を伝わる風を感じるような生き生きした色の仕上、フジカラープリントは、すぐれた設備と確かな品質管理から生まれます。

神奈川フジカラー
横浜市旭区川島町2888 ☎045(381)7111(代)

よい品に まごころそえて ベターライフのお手伝い。



●川崎店 ☎ 044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎ 0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



●藤沢さいか屋 ☎ 0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



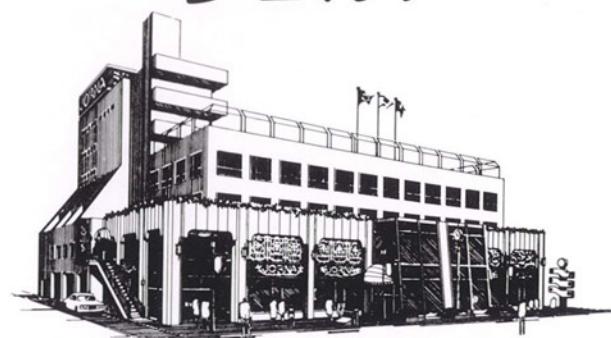
三越グループ

藤沢

さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジョルナ



●町田ジョルナ ☎ 0427・23・2531
〒194 町田市原町田6-6-14



MACHIDA
JORNA

第2・3水曜定休

県下随一！ 画材・製図・デザイン用品の専門店



画材・製図・デザイン用品コーナー

● **ユーリンファボリ** 横浜・馬車道
TEL.(045)662-1231
地下鉄関内駅馬車道口下車1分・国鉄関内駅北口下車3分

● **藤沢店** 藤沢駅南口名店ビル6階
TEL.(0466)26-1411

● **厚木店** 小田急線・本厚木駅前
TEL.(0462)23-4111

洋画材料/デザイン用品/製図用品/日本画材料/各種紙類

グループ展に…個展に…
作品発表の場としてご利用下さい。

ユーリンファボリ・7階ギャラリー

●ギャラリーについてのお申込み・お問合せは
有隣堂営業企画課ギャラリー係へどうぞ。
TEL.(045)261-1231(代表)

一枚の絵が、 心を豊かにしてくれた。

くらしを豊かに——東洋信託銀行の願いです。

東洋信託銀行は、信託業務をはじめとする
幅広い業務を通じて、みなさまのくらしのあらゆる面で
お役に立ちたいと願っております。
あなたのより大きな明日のために、
ぜひ東洋信託銀行をご利用ください。

東洋信託銀行

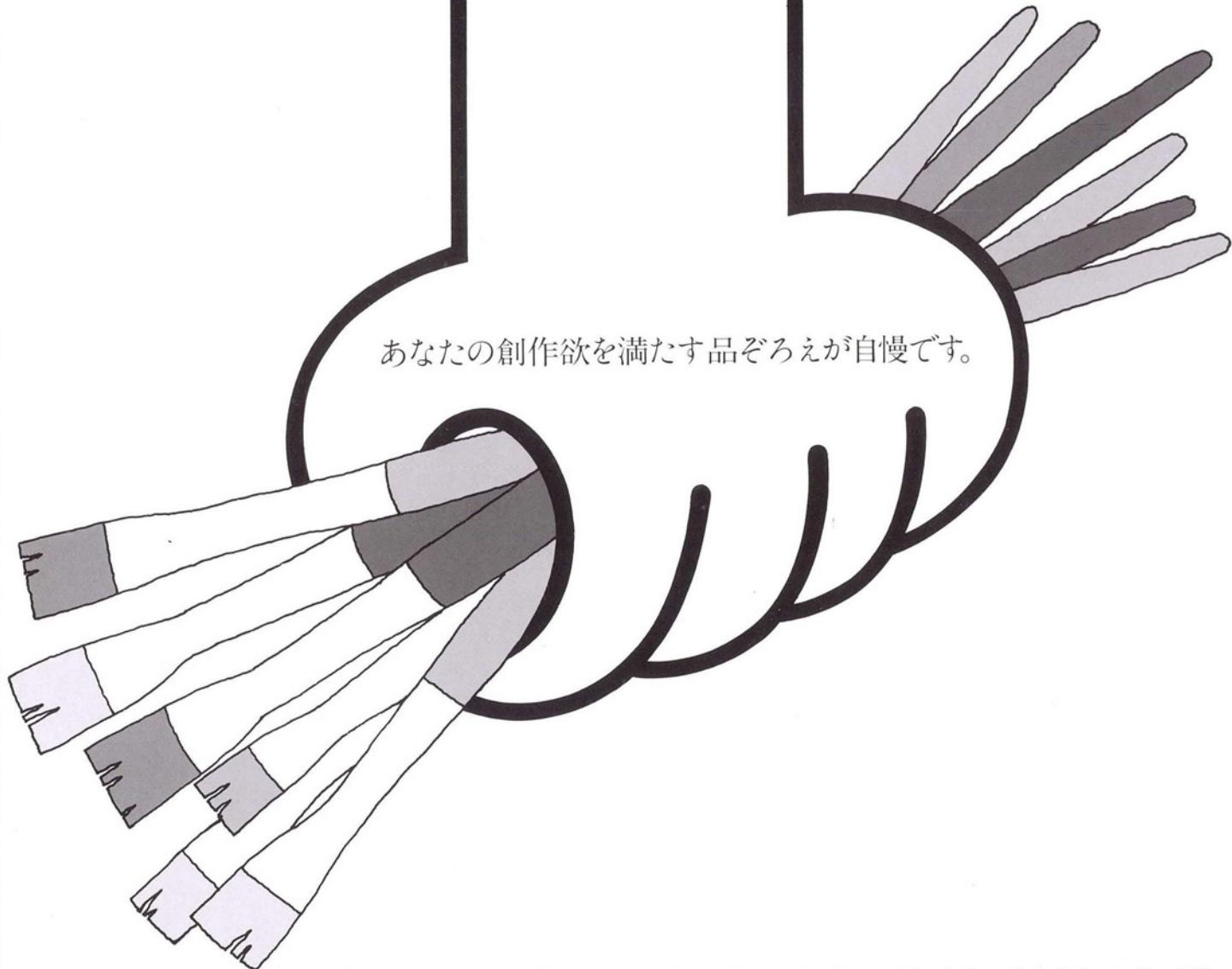
横浜支店

〒220 横浜市西区北幸1-1-8(横浜駅西口前)
☎045(311)2421

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル4F・6F TEL.045-311-1281(代) 内線587(4F) 522(6F)
鶴見店 鶴見駅ビル3F・5F TEL.045-521-4520(3F)・045-521-3637(5F)

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、松戸、他全12店舗



ニューヨークのトップ・デザイナー
ジェフリー・ビーン

Jeffrey Banks



軽やかに 春のジェフリー・ビーン

ニューヨークのトップ・デザイナー

ジェフリー・ビーン春の新作がとどきました

軽やかな春をそのままデザインした一着
あなたの春を探しにお出かけください

■横浜タカシマヤ3階レディスフロア
■玉川タカシマヤ2階レディスフロア



横浜 高島屋
TEL 045(311)1251

○ サクラカラー プリント



信頼の
おける 品質を
迅速に あとどけする

プロ用カラープリント
アマチュア用カラープリント

株式会社 京浜現像所

横浜市神奈川区新子安1-22-22
TEL 045(431)7221

サクラカラーII

PENTAX



「標準」をこえた男たちに出会った。

父親ともちがう、兄ともちがう。彼らに出会った時、男くさを感じた。わざわざ街を離れて、大自然のどまん中に飛びこんだかいがあつたかも知れない。いろんな体験をしてきたんだろうな。僕みたいな若僧ともつきあってくれる。心の大きな人たちだ。自然の辯には決してさからわない。大声で笑う。構えないって素晴らしいな。いい写真をとれよと励ましてくれた。嬉しかった。大自然をズームする。それは、じつと待つことじと教えてくれた。指先が自然にシャッターを押した。綾り優先自動露出一眼レフ MV1。誰でも「標準」をこえる日がある。

- SMCペンタックスM50ミリF2付 ¥49,500ボディー ¥37,000(ケース ¥3,000)
- SMCペンタックスMズーム40~80ミリF2.8~F4 ¥39,000(ケース ¥2,000)
- SMCペンタックスMズーム75~150ミリF4 ¥45,000(ケース ¥2,000)

for ZOOM



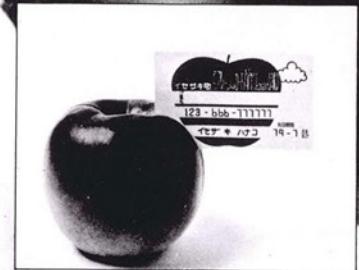
PENTAX

MV1

ペンタックスクレジット^{登録} このマークのお店で3~20ヶ月、ボーナス払い・LOK・カタログご希望の方は、機種名をご記入のうえハガキで〒100 東京都千代田区永田町1-11-1地光学工業株式会社 宣伝部へ。

あざやかに旅する気持——ショビニック

私たちのまち
いま、いろいろなバリエーションから
新しい生活の形をイメージした空間
ひとつの提案から……
みずみずしく生まれ変わった四つのステージ
あのフレッシュなリンゴの香り
イセザキ・モール
訪れてみませんか!?



アップルシティはキャッシュレス!
アップルクレジットカードで
ショビニックをお楽しみください。

YOKOHAMA はずむこころで—ショビニック
イセザキ町
テレホンガイド 045(261)1020

NINA RICCI



80冬のファッション
鮮やかですか、きょう。ニナ・リッチ

おとの感性で魅いらしてくれるニナ・リッチ
ひとつひとつの出逢いを大切にするあなたへ
よりシックに、よりエレガントに
いま、誰よりも美しく輝いて.....



■本館3階ニナ・リッチコーナー

家族で楽しいショッピング



イセザキ町

横浜松坂屋

電話261-2121 水曜定休

第16回神奈川県美術展図録

発 行 神奈川県美術展委員会 ©1981

事務局：神奈川県県民部文化室

表紙デザイン 潧本 文男

撮 影 熊代志津夫

制 作 株式会社 ガリバー

